

# フォーラム 2003

## 受験英語を考える

主催 英米文化学会

平成 15 年 6 月 15 日開催

於 上智大学

## フォーラム 2003 に寄せて

日本の英語教育は1世紀にもわたる長い歴史を有しておりますが、それはまた常に批判にさらされた歴史でもあります。中学、高校、大学と8年も英語を勉強したにもかかわらず全く効果があがっていない。常にこのように言われ続けております。その批判のなかで受験英語が日本の英語教育を歪めているという批判も、根強いものがあるように思われます。

本当にその批判は的を得た批判なのだろうか。現行の大学入試の英語の問題は中学、高校の英語教育をゆがめているのだろうか。効果があがっていないと言われるが、実際に毎日英語を使って仕事をしている企業の人達は受験英語をどのように考えているのだろうか。もし問題があるとすればどのような解決策があるのだろうか。このような視点で今年のフォーラム 2003 は「受験英語考える」にいたしました。

昨年のフォーラム 2002 では、やはり大きな問題となっている、大学生の英語力低下をとりあげ、「英語力を問う」と題して様々な角度から検討を加え多大な成果をあげることができました。今回のフォーラムが発表者とフロアーとの活発な議論をよび、日々英語教育に携わっている我々に大きな刺激を与えてくれるフォーラムになることを期待しております。

英米文化学会会長 高 取 清

# 目 次

## 時 程

基調講演 (10 : 30 より)

### 受験英語と現代の標準的な英語

田辺 洋二 (東京国際大学教授・JACET 会長)

シンポジウム 受験英語 (13 : 00 より)

#### シンポジウム資料

#### 大学受験英語が、高校の英語教育に与える影響

— 高校の英語教師の意識調査とその分析を通して —

東京都立石神井高等学校 田 嶋 英 治…… 1

#### 大学の出題者は受験英語をどう考えているか

千葉工業大学教育センター助教授 羽井佐 昭 彦……33

#### ビジネスの世界から見た受験英語

東京純心女子大学講師 森 千佳子……43

#### 受験英語の功罪：これからを考える

文教大学文学部講師 糸 井 江 美……48

# 大学受験英語が、高校の英語教育に与える影響 — 高校の英語教師の意識調査とその分析を通して —

田 嶋 英 治 (東京都立石神井高等学校)

## はじめに

「大学受験英語が、高校の英語教育にどのような影響を与えているのか」を調査するため、高校の英語教師に意識調査を実施した。「大学入学試験の英語」いわゆる「受験英語」に関しては、様々なことが言われてきた。例えばいくらかの教師が、「大学入試があるから、英語の実践的コミュニケーションを高める授業ができない」というのはその一例であろう。確かに大学入試の英語の試験は、高校の英語教育に良くも悪くも影響を与えていると思われる。しかしこのように、受験英語に関していろいろ評価されていることは真実なのだろうか、という疑問が残る。

以下は上述のテーマで行なった、「高校の英語教師の意識調査とその分析」であるが、これにより大学受験英語が、どのような影響を高等学校の英語教育に与えているかがみえてくる。

## 1. 意識調査の概要

【調査方法】 下記の質問事項のアンケート用紙を、高校の英語教師に送付し回答を回収。

【被調査者】 高等学校の英語教師37人。  
各教師の勤務校は公立及び私立で、生徒の英語力のレベルは様々である。

【被調査者分布】 表1は回答者の性別、年齢別の分布。  
表2は回答者の性別、教職年数別の分布。  
質問事項の回答者は全37名であるが、性別、年齢、教職年数に関しては、無回答者が2人いたので、表1、表2に関しては35人の分布となっている。

(表1) 性別、年齢別分布

	20代	30代	40代	50代	60代
男性	0	2	9	3	2
女性	2	2	8	5	2

(表2) 性別、教職年数別分布

	9年 以下	10年 以上	20年 以上	30年 以上
男性	1	5	8	2
女性	6	5	6	2

## 2. アンケート調査項目

- 質問 1. 受験英語という言葉あるが、「受験英語」という特別な英語が存在すると思う。
- 質問 2. 大学入試の英語は、高校の英語教育に影響を与えている。
- 質問 3. 大学入試の英語は、高校の英語教育や英語の授業に良い影響を与えている。
- 質問 4. 大学入試の英語は、高校の英語教育や授業に悪い影響を与えている。
- 質問 5. 大学入試から英語をなくすべきである。
- 質問 6. 大学入試は英語を必修にすべきである。
- 質問 7. 大学入試の英語を選択科目にすべきである。
- 質問 8. 大学入試の英語の問題は、過去（5年またはそれ以前）に比べ、近年は総じて改善している。

- 質問 9. 大学入試センターの英語の問題は、妥当性、信頼性のある良い問題である。
- 質問 10. 大学入試センター試験の英語の問題は、改善の余地がある。
- 質問 11. 大学入試の英語を視野に入れ、英語の授業をしている。
- 質問 12. 大学入試に英語があるから、思うような高校英語の授業ができない。
- 質問 13. 大学入試の英語の問題には、難問・奇問が多い。
- 質問 14. 大学入試の英語にリスニングを必修にすべきである。

### **自由記述**

- (1) 大学側に大学入試の英語の問題に関して、何か要望があれば自由に書いて下さい。
- (2) 大学入試の英語の問題を総合的にみて、良いと思うことを自由に書いて下さい。
- (3) 大学入試の英語の問題で、悪い点を具体的にあげて下さい。
- (4) 今までに大学入試の英語の問題で、良いと思ったものがあれば書いて下さい。
- (5) 今までに大学入試の英語の問題で、悪い(ひどい問題)と思ったものがあれば書いて下さい。
- (6) 高等学校学習指導要領(平成15年度より実施)と大学入試の関係で、何かご意見があれば書いて下さい。
- (7) 大学に貴校の生徒が入学したら、大学にどのような英語教育を望むか自由に書いて下さい。

### **3. 受験英語に対する問題提起**

下記には最初に、意識調査から出てきた回答者の意見を分析し、その結果から得た問題を提起した。

#### **意識調査からの問題提起**

- (1) 大学入試の英語の問題は、受験生の英語力の何を測定し(what to test?)、またどのように測定しようとしているのか(how to test?)、という問題。①言語の知識を問う問題か、②言語の技能を問う問題か、③あるいはその両方かという問題。

言語体系知識(usage)重視か言語使用(use)重視なのかという問題は大きい。また大学入試において、受容能力(receptive skills)と発表能力(productive skills)の測定をどのようにするかといったことも問題である。

- (2) 大学入試の英語の問題に関する、信頼性(reliability)、妥当性(validity)、実用性

(practicability)の問題。

- (3) 大学入試の英語の問題は、高校生の英語学習に対する動機づけを、より一層高められるかという問題。大学入学試験問題には波及効果 (backwash effects) が求められているという問題。
- (4) 高校生の年齢と試験の長文問題内容に関する問題。高校生という年齢を考えて、長文の内容が適切であるかどうかという問題。
- (5) 高校の学習内容と大学入試問題の関係性の問題。高等学校学習指導要領を超える内容の試験の場合、その許容範囲をどのように考えればよいのかという問題。(語彙レベル、語彙数、一つの問題の文章の長さ、など)
- (6) 出題の方式について。記号選択か記述式かという問題。センター試験のような記号問題だけで、英語の能力を本当に測定できるのかという問題。
- (7) 問題作成者自身が、しっかり入試の問題を検討しているのかという問題。受験生を混乱させるような設問や、作問者の個人的趣味や思い込みによる試験ではないかという問題。(クイズ的問題、など)
- (8) 大学側はどのような英語力の生徒を入学させたいのかという問題。例えば、ある大学が出題するような極度に難しい英語の問題が解けなければ、本当にその大学で勉強についていくことができないのかという問題。大学側は学生の力を伸ばそうとしているのかという問題。
- (9) 英語力を評価する問題かどうかという問題。高校生が日本語で読んでも、理解が難しい英文の内容の理解を要求する試験も実在するという問題。
- (10) 大学で勉強する上で、英語の実践的コミュニケーション能力は絶対に必要かという問題。高度な英語の文献や論文が読めるだけではいけないのかという問題。
- (11) 大学入学試験が英語の「実践的コミュニケーション能力」を一層多く問うような方向に向かうことにより、中途半端なコミュニケーション能力を問う試験を憂慮するという問題。
- (12) 英語の実践的コミュニケーション能力を測定する問題作成が、可能であるかどうかという問題。実践的コミュニケーション能力を評価する、より質の高い問題を作成するのが可能かどうかという問題。(特にリスニング問題の導入など)
- (13) 試験問題は、受験生の英語能力や学習能力を弁別できるように作成されているかという問題。英語力の測定の仕方とその方法の問題。(総合問題や本文を読まなくても、答が分かる問題など)
- (14) 一部の大学で実施しているような、TOEFL、TOEIC など他の外部テストや資格テストで、英語の試験を代替させることの問題。また導入した場合の問題点は何かという問題。
- (15) 本当の英語力とは何を意味するのかという問題。テストにおける配点の問題。設

問の配点をどのように決めるのか。配点によって総合点の相違はどのようにとらえるべきかという問題。

- (16) 自由英作文の評価の問題。自由英作文は正しく評価されているかという採点基準の問題。(使用語彙、文法、語法、表現など)
- (17) 受験英語の学習放棄値/解約価値 (surrender value) に関する問題。

#### 4. アンケート調査の詳細

以下はアンケート調査項目(前述2)の詳細である。アンケートは質問と自由記述で構成されている。それぞれの質問事項の直後にある、「回答者の理由」は、被調査者が記述した意見である。また「調査者から分析できること」は、調査者が「回答者の理由」から分析したことをまとめたものである。

◆各質問事項の⑤～①の番号は、次のことを示す。

- ⑤大変 (大変そう思う) ④普通以上 (かなりそう思う) ③普通 (そう思う)
- ②あまり (あまりそう思わない) ①ぜんぜん (ぜんぜんそう思わない)

なお各項目のパーセンテージは概算である。

**質問 1.** 受験英語という言葉があるが、「受験英語」という特別な英語が存在すると思う。

⑤大変 (12%) ④普通以上 (38%) ③普通 (20%) ②あまり (14%) ①ぜんぜん (16%)  
全体の70%が、存在すると回答。

#### 【回答者の理由】

「受験英語」という特別な英語はないとする意見。

- ・ 昔はあったかもしれないが、今は考えられない。
- ・ 重点指定普通高校の場合、受験指導が自明なので、とりたてて受験英語という意識はもたなくなった。(注)ここでの重点指定校とは、都立高校で指定された進学指導重点高校のこと。
- ・ 本当の英語力があれば答えられるものだから。



「受験英語」という特別な英語があるとする意見。

- ・ かなり改善されていると思うが、まだ古い用法が現れることがある。
- ・ 以前に比べて、難解な英文が入試問題に出題されることが減っているが。
- ・ 普段あまり使わないイディオムなど、覚えなくてはならないところがある。
- ・ 日常的な英語使用と、あまり関係のないことまで教えなくてはならない。
- ・ 受験のための入試問題の流行があるから。
- ・ 入試しか現れないような英語があるから。
- ・ 個々の大学入試に対応する為には、特別な受験学習が必要である。
- ・ 文法を細かく見すぎる。

### 1の調査から分析できること

キーワード：受験英語の定義。特別な受験英語学習。

◆回答者の意見からみると、以下の条件を満たすものが「受験英語」ではなくなるらしい。  
すなわちこれらの条件を満たすものが、好ましい英語に近くなるようである。

- (ア) 入試英語の素材自体が、より現代英語に近づけたものであること。
- (イ) 日常の英語の使用と関係があること。入試問題で見られる英語や問題が、日常の英語の中にみられること。
- (ウ) 文法や語法等であまりマニアック的に細かくせず、古めかしい表現を排除すること。
- (エ) 英語の4技能をしっかりと測定できるものであること。

質問 2. 大学入試の英語は、高校の英語教育に影響を与えている。

⑤大変 (35%) ④普通以上 (49%) ③普通 (16%) ②あまり (0%) ①ぜんぜん (0%)  
全体の100%が、影響を与えていると回答。

#### 【回答者の理由】

- ・ 大学入試を受ける生徒には当然のことと思う。
- ・ 入試があるので英語を勉強する、入試があるので学校と塾を区別するなど、良くも悪くも影響がある。
- ・ 大学進学を目指すなら避けて通ることができない。

- ・ 大学入試の問題を意識して授業をせざるをえない面がある。
- ・ 入試があるので英語学習が入試用に行なわれており、5文型の指導がどこでも中心行なわれているから。
- ・ 必要以上に意識している人もいるから。
- ・ 以前より与えていないが、かなり与えていると思う。
- ・ 個々の大学入試に対応する為には、特別な学習する必要がある。
- ・ 生徒にとって大学受験が大きな動機づけになっている。
- ・ 高校ではもっと会話を取り入れることができると思う。
- ・ 日常生活で必要とされる英語と、大学入試のための英語には違いがある。
- ・ 半分以上の高校ではそうである。

## 2の調査から分析できること

**キーワード**：受験英語と文法指導。伝達（生活）言語能力（BICS: basic interpersonal communicative skills）と学力（学習）言語能力(CALP: cognitive/academic language proficiency)。

◆受験英語は少なからず高校の英語教育に影響を与えている。（受験英語がどう変われば、高校英語教育に良い影響を与えるのかを考えていくことが望まれる。）

- (ア) 大学受験に対するため、5文型に始まる文法指導が中心になる。
- (イ) 大学受験の英語に合格するための勉強をする必要性。志望大学の問題が良問であろうと、悪問であろうと、その大学に対する勉強をしなければならない。
- (ウ) 生徒にとっては英語を勉強する動機づけになっている。試験がなければ、生徒は英語を勉強しなくなるか。
- (エ) 受験英語にはあまり会話を取り入れられていない。したがって高校でも会話の授業が重視されない。
- (オ) 大学側が望む高校生の英語力と、高校側が指導できる限度のギャップがある。会話的能力と学問をする上での能力。

3. 4のうち、どちらかを答える。

**質問 3.** 大学入試の英語は、高校の英語教育や英語の授業に良い影響を与えている。

⑤大変 (0%) ④普通以上 (40%) ③普通 (32%)

全体の72%が、良い影響と回答。

#### 【回答者の理由】

- ・ 良い問題が増えてきている。
- ・ 現在担当している生徒の層にとって、むしろ学業に取り組む励みとなっている。将来の為と自覚している。
- ・ 英語を勉強するはっきりした目標であるし、将来英語を必要としていない人達も、入試がある為に、英語をいっぱい勉強するから。
- ・ とにかく英語は大切という概念のもと一般の意識があるため。
- ・ 実践的な英語力はいまひとつだが、単語や構文は覚える。
- ・ 最近の長文、速読は少しずつ backwash effects を与えている。
- ・ 入試問題自体がすばらしいとは思わないのだが、ほとんどの大学で入試科目があるため、最後まで生徒は勉強し捨てない。知的な英文に取り組むモチベーションを与えている。
- ・ 勉強のモチづけ、大学での勉強の基礎となる。
- ・ 一時期、真剣に英語に接することができる。
- ・ 語彙力、構文力の向上ができる。
- ・ 特に意識したことはない。
- ・ 国際的に活躍できる人材の育成には、今以上の4技能のレベルのアップが必要であると思う。
- ・ 大学で行なうだけでは無理である。
- ・ テストがなければ勉強はしないという風潮があるので、入試がマイナスとは言えない。

#### 3の調査から分析できること

キーワード： backwash effects、 モーティベーション。

◆受験英語の良い方の影響は何か。以下に示す回答であげられた良い点をさらに発展させるためには、どのような方策が考えられるであろうか。特に backwash effects を考えた問題作成が望まれている。

- (ア) 入試が、学習に対するモチづけとなっている。
- (イ) 単なる会話的なものではなく、知的な学術的文章を読むモチづけとなっている。
- (ウ) 少しずつではあるが、backwash effects を与えている。
- (エ) 大学入試には英語を勉強させる強制力がある。

**質問 4.** 大学入試の英語は、高校の英語教育や授業に悪い影響を与えている。

⑤大変 (3%) ④普通以上 (11%) ③普通 (11%) その他の回答：わからない (3%)  
全体で 25%が、悪い影響と回答。

【回答者の理由】

- ・ テストで点を取るための勉強は、英語嫌いを助長する。不必要な難しい単語や表現が要求されている。
- ・ 実践的な英語運用に不要なことが多すぎる。
- ・ 入試に「話すこと」に関する問題がほとんど出題されないので、「オーラルコミュニケーション」の授業が軽視される。
- ・ 生徒の意識が受験対策重視となっている。
- ・ 入試に受かるためだけの勉強しなければならない。大学名を見る企業も悪い。

**4の調査から分析できること**

キーワード：英語の実践的コミュニケーション能力の測定。オーラルコミュニケーションと受験対策。 英語学習の目的は何か。

◆実践的英語コミュニケーション、すなわち英語の運用能力を評価する問題が少ないのではということが問題にされている。大学入試が高校英語教育に与える影響を考える上での一つ問題でもある。

- (ア) あまりに細かく、不必要な問題がありすぎる。
- (イ) 大学入試は高校の授業に影響を与える。
- (ウ) オーラルコミュニケーションをもっと多く出題すれば、生徒もこれを重視する。
- (エ) 大学入試の英語の問題は実践的コミュニケーション能力を測定していない。
- (オ) 英語を勉強する目的が、大学入試のためになってしまうことがある。

5. 6. 7のうち、どちらかをお答える。

**質問 5.** 大学入試から英語をなくすべきである。

⑤大変 (0%) ④普通以上 (2%) ③普通 (0%)

全体の2%が、なくすべきと回答。

【回答者の理由】

- ・ 英語は一応勉強すべきであるが。

**5の調査の分析**

(ア) 大学入試から英語をなくすべきという意見はすくない。

**質問 6.** 大学入試は英語を必修にすべきである。

⑤大変 (32%) ④普通以上 (19%) ③普通 (16%)

全体の67%が、必修と回答。

【回答者の理由】

- ・ 学習の動機づけが何であろうと、結果的には熱心に勉強するから。
- ・ 社会で勉強するには、不可欠な教科と考えるため。
- ・ 大学入試が英語を学ぶ動機づけとなっている点は見逃せない。理科系の生徒も、世界に自論を発信できるような人間に育てて欲しい。
- ・ 日本のような input の少ない環境では、英語がある程度できるということは、その人が学習に対する能力が高いことを示していると思うので、英語を測れば手っ取り早いのである。他の外国では英語と同じように、習う場がないので難しい。
- ・ 大学の授業で英語の論文を読む力があるか、チェックする必要があると思うから。
- ・ 国際化時代には是非とも必要である。
- ・ なくすべきではないが、学部によって難易度を調整すべきである。
- ・ 世界の共通言語として必要である。専門分野の研究としても必要である。
- ・ 学部によって必要度が異なってくると思うが、今後ほとんどの分野で、コミュニケーションの道具として英語が求められる必要性がある。
- ・ 大学が大衆化したとはいえ、外国語の知識は必要である。
- ・ 何をするにも必要であり、自国を振かえる機会にもなっている。

**6の調査から分析できること**

キーワード：英語の発信能力。専門分野と英語力。英語能力と学習能力の相関。

言語習得の目的 (ESLかEFL)。言語環境。 国際化と言語政策。

◆英語の試験を必修にすべきであるという意見には様々なものがある。ここに述べられて

いる意見の中には、英語教育を考える上で重要な問題が含まれている。

- (ア) 単に大学合格というだけでなく、国際化社会に参画するために必要の科目である。そのために必修として勉強する必要がある。
- (イ) 理科系の生徒に発信能力をつけさせる。英語がもはや文化系だけのものではない。
- (ウ) 英語力が高いと学習能力が高いという相関の高さを感じる。
- (エ) 大学教育では専門分野の論文が読めるべきである。大学で高校のような英文の読み方を教えるのでは遅い。道具としての英語力の確保。
- (オ) 日本人が第二外国語として習得すべき言語。特に英語でのコミュニケーション能力を持つ必要性。

**質問 7.** 大学入試の英語を選択科目にすべきである。

⑤大変 (14%) ④普通以上 (11%) ③普通 (5%)

全体の 30%が、選択科目と回答。

【回答者の理由】

- ・ 英語だけが外国語ではないし、日本語教育をもっと充実させたほうがよい。
- ・ 英語を必修にする理由がない。
- ・ 大学によっては英語を必要としない大学もあるであろう。
- ・ 大学のカラーを出せばよい。
- ・ 受験科目には語学の科目が必要と思うが、英語に特定する必要はない。
- ・ 現状では入試のためだけに英語を勉強する生徒が多い。

**7の調査から分析できること**

キーワード：母語能力と外国語能力。L1とL2の関係。多言語。

◆バイリンガル教育では、セミリンガルということが問題にされることがある。ここでは母語の言語能力の高さと学習能力の関係を問題にした意見がみられる。また多言語での入

試の可能性も提起されている。

(ア) 母語能力(日本語能力)をもっと高めるべきである。母語能力の高さと学力に注目。

(イ) 英語だけにする必要はない。もっと多言語に注目し入試もこれに対応すべきである。

**質問 8.** 大学入試の英語の問題は、過去（5年またはそれ以前）に比べ、近年は総じて改善している。

⑤大変（5%） ④普通以上（32%） ③普通（52%） ②あまり（8%） ①ぜんぜん（0%）

その他の回答：わからない（3%）

全体の89%が、改善していると回答。

#### 【回答者の理由】

- ・ ①長文の内容理解を試す問題が7割以上（大学受験関係会社調べ）を占めていて、好ましい傾向にある。
- ・ ②難問奇問はあまり見かけないため、実際に受験した生徒から、極端に難しすぎるという声は聞かれなくなったため。
- ・ 少しずつは変わっていきそうだが、全体的に見たらどうだろうかと思う。
- ・ 良くなっている部分もあるが、旧態依然の部分も相変わらず多い。
- ・ テスティングから見て望ましい問題が増えている。
- ・ 基本的な変化はない。
- ・ 一部の国立大を除いて、そうは思わない。
- ・ 難解な訳読問題より、量をこなす問題が多い。
- ・ やさしい問題をたくさん解かせる傾向がある。
- ・ 長文を読ませる問題。リスニングの増加。
- ・ いわゆる難問、奇問、古い表現は少なくなってきたと思う。
- ・ 口語問題の取り入れ。
- ・ 大学の問題作成者による。
- ・ テストをどのようにすべきか、コンセンサスがないのではないか。

#### **8の調査から分析できること**

キーワード：リスニング問題や口語問題。試験問題作成者の問題。

◆リスニング問題や口語問題が徐々に注目を集めている。しかし本格的にこれを導入するには、様々な問題があり、解決すべき問題があるようだ。例えば「リスニング問題自体が

必要かどうか」といった問題や、「導入するとしたら、物理的問題をどのように解決すべきか」といった問題である。この他、試験作成者の問題も提起されている。

- (ア) リスニングや口語問題も徐々に取り上げられてきている。
- (イ) テスト作成が、出題者側でよく検討されていないのではないか。
- (ウ) 難問奇問もへり、大分改善されつつあるという意見がある一方、まだ改善がされていないという意見もある。

**質問 9.** 大学入試センターの英語の問題は、妥当性、信頼性のある良い問題である。

⑤大変 (35%) ④普通以上 (46%) ③普通 (13%) ②あまり (3%) ①ぜんぜん (0%)  
その他の回答： わからない (3%)  
全体の 94%が、良い問題と回答。

【回答者の理由】

- ・ 発音等の問題が、リスニングに変われば問題はない。
- ・ 毎年「問3」に出てくる文章問題は、理論的な思考展開をみる良問の部類だと思う。
- ・ 細かい部分を見ていくと、「?」「!」という問いがある。
- ・ まだ改善の余地がある。
- ・ 時々難解な単語が出題されたり、どの語を強めて読むかといった問題に、首をかしげるような問題も見受けられる。
- ・ とても良い。
- ・ リスニング問題が実施されるまではそうは思わない。
- ・ 文法問題にも会話文が多く盛り込まれている。
- ・ マークセンス方式では、英語を測る手段として限界がある。
- ・ 2002年度の問題をみていると、妥当性に疑問を感じる。

**9の調査から分析できること**

**キーワード**：発音問題とリスニングテスト。マークセンス方式と記述式。会話問題。

◆紙上 (paper and pencil test) での発音問題についての問題を、実際の音声問題に移行することが提案されている。また問題の出題の仕方としてマークセンス方式についての問題



もなされている。

- (ア) 特に発音問題の出題は紙上ではなく、実際に音声を聞かせるような方法で出題をすすめる方向にすべきである。
- (イ) 文中における単語の強勢問題については再考すべきである。
- (ウ) リスニング問題を導入すべきである。
- (エ) 記号方式の選択肢問題で、英語能の能力を正しく測定できるのかという問題。

**質問 10.** 大学入試センター試験の英語の問題は、改善の余地がある。

⑤大変 (3%) ④普通以上 (38%) ③普通 (35%) ②あまり (18%) ①ぜんぜん (3%)  
無回答 : (3%)  
全体の 76%が改善の余地有りと回答。

【回答者の理由】

- ・ リスニングが導入されればよい。
- ・ リスニングを質をよくして入れる。
- ・ 難問奇問が少なくなり、2002年度のセンター入試はやさしすぎたのでは？ 全国平均126.8では差がつかない。来年度は難化が予想される。
- ・ まだ古い体質を残している部分があると思う。
- ・ パッセージに対する問いの出し方や音声に関する問題。
- ・ 問題のパターン化の改善が必要。
- ・ 文の中の強勢の問題は疑問である。
- ・ より良いものを目指す余地は残っている。
- ・ 英語を書かせたり、TOEFLにしたり、リスニングを入れる。
- ・ 表やグラフを使うことに、必然性が感じられないことがある。
- ・ 語順整序は必要か？
- ・ あまり長すぎる長文問題。
- ・ TOEICを参考にする。

**10の調査から分析できること**

キーワード : リスニング問題。TOEFLとTOEIC。出題方式と設問。

- ◆ 完璧な試験問題は難しいと思うが、大学入試センター試験にも改善すべき問題が提起されている。特に音声問題や出題形式に対して意見がみられた。

(ア) 質の高いリスニング問題を早急に導入する。しかしリスニング問題の導入には議論されるべき問題もある。

(イ) 出題のパターン化についてなど、出題方式や設問の作り方の再検討すること。

質問 11. 大学入試の英語を視野に入れ、英語の授業をしている。

⑤大変(16%) ④普通以上(35%) ③普通(21%) ②あまり(14%) ①ぜんぜん(14%)  
全体の72%が、視野に入れていると回答。

【回答者の理由】

大学入試を、視野に入れている。

- ・ 3学年担当者(担任)は、毎年受験結果報告書を提出しなければならないので、自然と意識するようになる。
- ・ 高校3年の表現の授業を受け持った時には、はっきり受験対策であった。
- ・ 高校3年のグラマーを受け持つことが多かったのでどうしても。
- ・ 進学校なので職場の価値観がそれしかないという感じである。
- ・ 高校3年生の授業ではそうである。
- ・ 過去問題などの解説をする。
- ・ 生徒や保護者のニーズにこたえるため。大学に進学するのが目標である。
- ・ やはり生徒の大多数が大学入試をめざしているので意識する。
- ・ センター入試を高校2年生からしている。慣れさせないと点数がとれない。
- ・ 入試対策以外の授業でも、頻度の高い単語、熟語には注意を向けさせている。
- ・ 基本的なことに特に注意している。文法、読解における作者の心理描写など。この他、語彙を広めるため同意語、反意語などでヒントを出し、単語の意味を推測させる。

大学入試は、視野に入れていない。

- ・ 生徒に難関大学を受けるものが少ない。
- ・ ほとんどが大学入試を受けない。
- ・ 進学者がほとんどいないため。

## 11の調査から分析できること

キーワード：学校間の格差。

◆受験英語が与える影響は、高校の進学状況により大きく異なる。またこれにより英語の指導の仕方も異なってくる。

(ア) 各学校の生徒の進路によってそれぞれ異なる。

質問 12. 大学入試に英語があるから、思うような高校英語の授業ができない。

⑤大変 (3%) ④普通以上 (8%) ③普通 (25%) ②あまり (32%) ①ぜんぜん (32%)  
全体の36%が、思うような授業ができないと回答。

【回答者の理由】

入試のため、思うような授業ができない。

- ・ 高校2年生でペーパーバックを読ませたいと思ったが、時間数の関係から、やはり大学受験に必要な文法事項や単語、熟語が含まれているリーダーを使わざるをえないという状況である。
- ・ 自分は何も変わらないと思うが、「学校の英語は入試の英語と関係ない」と思い込んで取り組まない生徒がいる。
- ・ 受験英語に取り組むのもそれなりに味いはある。
- ・ 高校3年生の授業ではそうである。
- ・ 文法重視になりすぎる。もっと作品（映画、歌など）を楽しんだりさせたい。
- ・ 物事理解力がない生徒には、大学で求められる英語は難しく理解できない。

入試があっても、思うような授業はできる。

- ・ 3年生のリーディングの授業で、一斉にセンター演習を入れるなど、授業で入試対策をとっているため。また実践的コミュニケーションをめざしたい生徒には、選択科目の「英会話」などで対応しているため不満がない。英語が難関で有名な大学にも、3名が「英会話」の授業を選択していた。
- ・ 高校英語にはReading(リーディング)、OC(オーラルコミュニケーション)など分野が分

かれているので、常にそういう気持ちで教えているわけではない。

- ・ 教師の指導法によるものが大きい。
- ・ 入試以前にクラスサイズ、時間数、科目区分などの制約の方が大きい。
- ・ 受験をしないので必要ない。

### 12の調査から分析できること

キーワード：科目区分。必修科目と選択科目。クラスサイズ。時間数。

◆入試のために思うような授業ができないとする意見もみられるが、おかれた状況の中で授業を考えていくのも大事であろう。また入試があっても、思うような授業はできるとする意見も多くみられる。

(ア) 英語の必修科目で、大学入試の関係影響が強い。特に3年生では大学に照準をあわせた授業となり、時間的制約があり、内容も文法、構文および長文読解中心となる傾向がある。

(イ) 選択科目の講座等で、英語学習を目的別にする場合は、あまり問題はないようである。

### 質問 13. 大学入試の英語の問題には、難問・奇問が多い。

⑤大変 (3%) ④普通以上 (24%) ③普通 (41%) ②あまり (29%) ①ぜんぜん (0%)

無回答：(3%)

全体の68%が、難問・奇問があると回答。

#### 【回答者の理由】

- ・ 近年はだいぶ改善されている。
- ・ 生徒が受験を希望している大学の過去問題に一応目を通し夏期講習等で使用したが、難問、奇問はあまり見かけられなかった。
- ・ 昔ほどは減ったという印象である。
- ・ 大学によっては明らかに落とす問題だったり、教授の趣味の世界だったり腹が立つことが多い。
- ・ 多くはないがある。たまにある。
- ・ 大学によりけりである。
- ・ 一部の難関大学だけだと思う。大学の先生には高校の現状をもっと勉強して欲しい。
- ・ 特に難関大学。テクニックが問われているようである。

- ・ 問題作成や手間を考えると、難問は多くなってもやむをえない。

### 13の調査から分析できること

キーワード：入試問題の改善。高校と大学の連携。出題者側の高校英語教育の研究と理解。  
外部発注の入試問題。

◆大学入学試験の問題作成者に対して、もっと高校の英語教育の現状について知ってほしいという意見がある。以下にあるように、出題者には特に厳しい要求がある。

- (ア) 難問、奇問に関しては、だいぶ改善されているという意見が多い。
- (イ) 大学教員にはもっと高校の現状を知って欲しい。出題者のどれだけの先生が高等学校の学習指導要領（英語）を読んだことがあるのか。受験者が高校生ということを理解しているのか。
- (ウ) 趣味的な問題に対する疑問。英語の出題者は、大学では英語が専門かという問題。英語が専門ではない先生が作成している場合はないのか。例えば、経済の専門の先生で、英語の出題をまかされ出題するということはないのであろうか。このような場合、英語の能力を正しく測定する問題を作ることは可能なのだろうか。
- (エ) 出題者の大学での専門性ときわめて高い、英語長文問題の内容。
- (オ) 私立大学などで入試回数が多くなり複雑になる傾向にあるが、優れた問題作成が可能かという問題。
- (カ) 一部大学にみられる、入学試験の外部発注の問題は優れた問題か。

**質問 14.** 大学入試の英語にリスニングは必修にすべきである。

⑤大変（5%） ④普通以上（27%） ③普通（52%） ②あまり（8%） ①ぜんぜん（5%）  
無回答：（3%）

全体の84%が、必修にすべきと回答。

【回答者の理由】

- ・ 学校の設備向上にもつながるから。現在の高校にはLLの設備がなく、音声面の指導が

行き届かない。リスニングが必修となれば、LL教室設置の理由づけともなる。

- ・ 大学入試目的ということで、目的とはずれているが、コミュニケーションをより重視し、授業がなされるきっかけとなると思うから。
- ・ 妥当性や信頼性のある出題が難しいかもしれないが。
- ・ どういう言語技能を見たいかは、学校、学部が決めればよい。
- ・ 高校の授業でも力を入れているから。
- ・ そうあるべきかもしれないが、そのために高校を会場に使わなければならなかったり、他の条件が必要になったりするのでは困る。
- ・ どのような英語を聞かせるかといった、中身が重要である。
- ・ 是非すべきである。せめて聞く能力はつけて欲しい。
- ・ コミュニケーション重視の授業を行なっているので。
- ・ 話すこと、聞くことは語学にとって大事なもの。現状ではリスニングを授業であまり扱っていない。入試に出ないから生徒もあまり望んでいない。
- ・ 実際、放送設備などの問題で難しいと思う。
- ・ コースによっては必要と思う。
- ・ 語学からリスニングをとると何もなくなる。

#### **14の調査から分析できること**

キーワード：質の高いリスニング問題の導入。

◆リスニング問題の導入は大きな問題である。それは高校の英語教育に多大なる影響があるからであろう。まさに「大学入試が変われば、高校英語教育が変わるか」というところにも焦点が当てられる。

- (ア) 妥当性、信頼性のある質の高いリスニング問題を導入すべきである。
- (イ) 語学でのリスニングや英語の実践的コミュニケーション能力育成の重要性を感じる。  
大学入試でのリスニングの導入は、高校の授業の変化をもたらす。
- (ウ) リスニングの導入では、放送設備など色々な条件整備が必要である。

#### **自由記述**

(1) 大学側に大学入試の英語の問題に関して、何か要望があれば自由に書いて下さい。

- ・ 有名大学の中には、まだまだ落とすためのものがある。本当の英語力を見るものにすべき。
- ・ 長文の内容理解を試す問題が7割を占めるのはよいことだが、まれに長文の内容が成人

向きで、高校生の年齢は理解するのが難しい（一般性に欠ける）ものもあるようだ。出題者の趣味かなと思うこともあるが、そういうときは受験生の大半が点数を取れていないと感じる。高校生の年齢にふさわしい内容を望む。

- ・ ペーパーの問題となると、どうしても現状のような問題になってしまうのかと思う。必要悪と考えている。TOEFL や TOEIC にしても同じこと。
- ・ 今では使わないような、死語になっていることについての問題はやめるべきである。
- ・ 知っていても使わない表現や、ネイティブスピーカーが使用しないような古い表現、文語的表現、難しい単語を問うようなことがないようにしていただきたい。
- ・ TOEFL や TOEIC の点数で、全大学「英語」の点数にしてしまうのがよいと思う。将来にも役立つし、教授は問題を作らずに済むし、学生側も勉強し易く、合否がわかり易い。
- ・ 英語の論文を読む力があるかどうかを測ることができる試験にしてほしい。受験生にそのような英語力をつけるための勉強を促すものにして欲しい。
- ・ 問題作成者はもっと現実を勉強して、真面目に問題を考えてほしい。
- ・ 高校生が3年間やってきたことが活かせば十分に解ける問題にしてほしい。
- ・ 本来は記述式や主旨等を読み込む力を試す問題がよい。
- ・ 高校の実態を理解し、もっと高校の現場を研究してほしい。
- ・ 個々の大学では変な問題を作らないで、共同して厳選した問題を作ってほしい。  
(センター試験を発展させるとか) でなければ TOEFL や TOEIC のスコアを参考にするとか。
- ・ その英語力が大学に入ってどう必要なか明確にしてほしい。
- ・ 入試英語の読解文をやたらに長くして、難問を出すのはどうかと思う。適度の長文で TOEIC のように長文の数を多くした方がずっと良い。  
学生は入学までにいやというほど勉強するので、入学したあとは、飽和状態で猛勉強したくないと思ってしまうものが多いので、大学に入ってから学力が低下するのみである。それよりも入試英語で良い生徒を獲得することばかり考えず、入学後に「我が大学ではこんな程度(低い)の学生も、これだけ伸びました」、と自信をもって言えるように、大学教育の充実を考えてほしい。入試テストのみ勝れた者だけを入れて、我が大学は優秀だとニヤついている大学は最低で、何も学生のことを考えていない。入試のみを難解にするのはその後の努力をしない証拠である。
- ・ リスニング、ライティングテストを取り入れる。

(2) 大学入試の英語の問題を総合的にみて、良いと思うことを自由に書いて下さい。

- ・ 内容を問う問題。要約の問題。
- ・ 採点が大変と思うが、書かせる問題を多くすべきである。

- ・ 長文の大意把握力をみる問題は大切。入学後、専門書を読んだす能力が求められているので、今後とも出題してほしい。
- ・ 長文などは工夫されていて、よいと思う問題も多い。
- ・ 英語の基礎力を再度見直すのに役立つ。
- ・ 語彙の増加。
- ・ 単語の知識を問う点はよいと思う。
- ・ 到達目標の基準にはなっている。
- ・ 語法、文法の単なる知識を問う問題から読解力を問う方向に進んでいる。
- ・ 興味深い問題が多い。
- ・ センター試験は改善されつつある。
- ・ 学習の動機づけとしてののみよい側面。

(3) 大学入試の英語の問題で、悪い点を具体的にあげて下さい。

- ・ 和訳、英訳の問題。
- ・ 空所穴埋めは、内容理解を考えて工夫して出すべき。
- ・ 固いエッセイにこだわっている。
- ・ 英文和訳のようなことばかり要求するのはよくない。
- ・ わざと間違いさせる問題はよくない。
- ・ 出題者が不勉強でよく問題を練っていない。
- ・ あまり語法のこまかい点を問いすぎである。
- ・ 運用能力を測るものではない。
- ・ 一つの大学で複数の日程で試験をやるようになって、以前ほど問題を練り上げる余裕がなくなったのではないか。
- ・ 難易度を考えてほしい。内容が高校生には難しすぎるものがある。
- ・ 生徒を必要以上に、惑わせる問題。
- ・ 一部の大学の難問、奇問。
- ・ その大学での学部や学生レベルに合わせて難易度のテストになっていない。
- ・ こまかい語法ばかりにこだわり、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング等の技能が十分テストされていない。

(4) 今までに大学入試の英語の問題で、良いと思ったものがあれば書いて下さい。

- ・ 私立X大学のリスニング問題。
- ・ センター入試の問題。 一部国立大学の入試問題。



- ・ 2002年度の私立X大学の問題は、最後の問題を除き良問である。
- ・ センター入試の「問3」に出る文章整除問題。理論的な思考展開を試していてよい。過去に国立X大学2次試験で、段落を正しい順序に並べる問題も良かった。
- ・ 国立X大学でTIMEから取った記事の時事英語の問題。
- ・ 大量の英文を読んで、その中から情報を読み取らせるリーディング問題。

(5) 今までに大学入試の英語の問題で、悪い(ひどい問題)と思ったものがあれば書いて下さい。

- ・ 文法的誤りのあるものはどこか。私立X大学の問題は最低。まさに重箱の隅をつつく問題。
- ・ 例えば受験問題集などの中にひどいものも多い。
- ・ アクセント、発音記号の問題はそろそろ廃止すべき。英語は英米人のものではない。
- ・ イディオムなどを問う意志がある英作文。
- ・ 国立X大学の英作文（長くてプロの翻訳者でも苦勞するようなもの）。私立X大学の多くの学部の文法問題。（普通の高校レベルを超えているわりには、ポイントは意外とくだらない）
- ・ イディオムのみを問う問題。文脈なし。
- ・ センター試験の文強勢を問うもの。（毎年）
- ・ 文法知識のみを問う問題。
- ・ 英作文で、どう考えてもおじいさんの感想みたいなので、なんでこれが10代の人が訳すのかと思った。
- ・ 使用頻度が極端に少ない単語（語彙）の知識を問うような問題。

(6) 高等学校学習指導要領（平成15年度以降）と大学入試の関係で、何かご意見があれば書いてください。

- ・ 大学入試用の勉強がどうしても必要になるということが気にかかる。
- ・ 近年あまりにコミュニケーション活動を重視しているので、言語構造を分析的にとらえられない大学生が増えているようだ。因果関係が調査された訳ではないが、中途半端なコミュニケーション重視は意味がなさそうだ。
- ・ 文を読ませる指導が大切。文章のアウトラインをつかむ力をつけさせる。
- ・ リスニングを入れた問題にしてほしい。

- ・ 実践的コミュニケーション能力を測ることが、大学入試で可能か。英語は入試の中で選択で良いと思う。
- ・ 大学側は高校側の現状にあまり関心がないのではないか。

(7) 大学に貴校の生徒が入学したら、大学にどのような英語教育を望むか自由に書いて下さい。

- ・ 自分の考えを英語で述べられる。人の前で堂々と英語で話せる訓練を望む。Accuracy より Fluency の移行を望む。
- ・ 各人のニーズを満たすように、選択の幅(メニュー)を増やして欲しい。例、「時事英語」、「ディベートトレーニングコース」、「商業英語」、「文学コース」、「アカデミックスキルコース」、「英語論文ライティングコース」など。
- ・ 留学、ネイティブスピーカーも入れ、お金もかけてほしい。
- ・ 時事英語、文学作品も併用する。
- ・ 社会で通用する英語を教える。先生が一行一行逐語訳しているようでは、せっかく高校で力をつけてあげても生徒の実力は死んでしまう。
- ・ LL 機材を完備して、LL の授業は必須と考える。同じテープを流すなら多人数でもかまわない。読解では各自の専門書が読める程度の内容が望まれる。
- ・ しっかりした基礎力があり、意欲的な学生には積極的に留学をさせてほしい。
- ・ 英語を使う機会(4技能全部)をたくさん与えて欲しい。
- ・ せめて人並みに英語を読む、書く、話すことをできるようにしてほしい。
- ・ 高校でやったことを基礎に、4技能を伸ばしてほしい。
- ・ スピーキング力を向上させること。
- ・ せっかく(高校で)多量の英語に触れさせたのだから、細部にこだわる昔ながらの訳読とかやらせず、読解力や表現力を伸ばしてやってほしい。
- ・ Negotiation 可能な英語力。
- ・ 実践的コミュニケーション能力と読書力。
- ・ 学部にもよるが、一般的な会話はできるようになってほしい。
- ・ 専攻学部にもよるので、一概には言えない。
- ・ 生徒には大学に期待するなと言う。自分で勉強することを心掛けるように伝える。TOEIC 受験をすすめる、新聞、雑誌を読めるような指導や、スピーチの指導も行なって欲しい。
- ・ 英語で書かれたものを読み、要点をつかみまとめ、それを口頭で発表したり、書くことができること。またディスカッションができるリスニング力の養成。しかし高校の段階で十分な文法力とリスニング力の養成が前提となると思う。

- ・ 英語を通して視野を広め、人間性がふかまること。また世界の動きに目を向けながら、日本人として日本を見つめ、将来の自分、日本を考えられるようになること。文学作品と同時に時事英語にも触れて欲しい。

#### 4. 試験問題の検討

以下には大学入学試験の過去問題から、いくつかの問題例を提示する。なお問題の本文(英文)については、⑦と⑫以外は省略する。参考文献はいずれも、全国大学入試問題正解(旺文社)である。なおここでは大学名(国立・私立)は示さないが、例は1998年入試以降のものである。

- ① ある英文を示しその中に、発音問題、内容理解、穴埋め、文法などいろいろ混ぜた問題。このような出題校は多数が、総合問題に関する批判も多い。批判例のいくつかには、次のようなものがあげられる。
  - (ア) 本文の中で思いつきのように派生語や語形変化あるいは発音などを問う問題。
  - (イ) 空所補充問題で、機能語(function words)と内容語(content words)の区別もなく、英文中の単語のいくらかを、空所にしている問題。また空所が多すぎる問題。
  - (ウ) 前後の意味を考慮することなく、構文や熟語が解けてしまう discourse を軽視した問題。
  - (エ) 本文を読まなくても解答できるような、同意語を問うような問題。
- ② 英文の内容を読まなくても、個人の知識で解答が分かる場合もある問題。
  - (例) 本文中からスターバックスの本拠地の名前を抜き出し、記入しなさい。
- ③ 単語数など、問題の指示文が明確でないと思われる問題。
  - (例) 次の絵(漫画)を見て、二人が何を話しているのかを想像し、英語で書きなさい。
- ④ 高校生の一般的英語力では、かなり努力を要すると思われる問題。

(例) 図と Key Events を参照しながら Tasty Tea Co.の株価の変動について英文で説明しなさい。(問題には株価の1950年から2000年までの変動の図が示されている)

Suggested Time 15分

⑤ 日本語力との関係のある問題。

(例) 次の1～5の日本語の表現の中から3つ選び、具体例を上げて英語で説明しなさい。

1. 対岸の火事    2. 一期一会    3. 二人三脚    4. 付和雷同  
5. 壁に耳あり障子に目あり

⑥ 絵(標識)を見て英文が読めなくても、絵から答が想像できる問題。

(例) 次のそれぞれの標識の説明として最も適当なものを、A～Dのうちから1つ選べ。

- A. 一方通行    B. 迂回せよ    C. 逆方向    D. ゆずれ

(絵は省略してあるが、問題の一つの絵には、一方通行の→のある絵がある)

⑦ ジョークのセンスがないと解けない問題。

(例) 次の英文はジョークである。文中のジョークである。文中の( )の中にそのジョークを締めくくる「落ち」(punch line)として最も適切なものを1つ下から選んで入れなさい。

A man orders a lobster in a restaurant. The waiter returns with his order, but the lobster has a broken claw. The man asks what happened.

The waiter says, "He was in a fight."

The man says, "( )"

- a. Ask the waiter when the game will start.    b. Go and get me the winner.  
c. Do you like boxing?    d. How much do I owe you?

⑧ 専門性の高い英文の問題。

(文部科学省の検定教科書の学習だけでは、解答が難しいと思われる問題。また英文の内

容について背景知識があると有利と思われる問題。)

(例1) 次の英文は確率について書かれた文章の一部である。これを読んで以下の設問に答えなさい。

(例2) 次の英文は金属の水溶液中での腐食速度について書かれたものである。これを読んで以下の設問に答えなさい。

(例3) 真核生物の細胞中には DNA が核以外にミトコンドリアにも存在する。ミトコンドリア DNA は特殊な遺伝様式をするので、非常に近縁な生物間の系統関係を推測するためのマーカー(目印)として近年の進化生物では用いられてきた。ところが1999年に出版された2個の論文は、遺伝様式に関する従来の仮説が正しくないことを示唆した。以下はこれに関する“Fathers can be influential, too”というタイトルの論評の一部である。これを読んで以下の設問に答えなさい。

⑨ かなり高度な英作文の能力を要求する問題。

(例) 次の日本語を英訳しなさい。

【問題】 私たちは、周囲にあまりにもたくさんある文化財になれっこになって、その存在を当然のここのように思いがちである。しかしほんとうは、一つ一つの文化財は、それを維持するために尽くしてきた多年の努力の結晶なのだ。文化財をおろそかにすることは、そうした人々の努力をないがしろにするという事実を忘れてはならない。

⑩ クイズ的な問題。

(例) 次のクロスワードパズルについて、下の問いに答えなさい。

⑪ 質問が複雑な問題例。

(例) 次の[A]、[B]、[C]の英文がそれぞれ完成した文章になるように、16から20までの[ ]内の語を並び替えなさい。そして3番目と5番目にくる最も適切な語を組み合わせ、それぞれ(1)～(4)から1つ選び、その番号をマークしなさい。(文頭にくるのも小文字で書いてあります。)

⑫ 問題文にあげている例を、受験生が知らないと不利になるかも知れない問題。

(例) Write as much as possible in English to answer the following question.

Why do you think virtual pets, for example, Tamagochi, Aiboo and Furby, have been used so popular in Japan recently? Give three reasons.

おわりに

今回の意識調査から特に言えることは、①大学入試問題は大分改善されてきているが、より質が高く、改善の方向を目指したテスト作成が望まれている、②大学入試問題と高校の授業の関係は大きい、それによって授業が縛られると考える教師は少なくなっている、③多くの英語教師は大学入試におけるリスニング導入を歓迎しているが、そこでは質の高い問題を望んでいる。しかし大学入試に、リスニング問題の導入自体に一部否定的な意見もある。④大学入試問題作成者に対しては、高等学校の学習指導要領をはじめ、高校の英語教育をもっと理解してほしいという意見がある、などである。以上が本テーマにおける調査の分析結果である。

〔参考文献〕 平成元年度 高等学校教育研究員 「授業改善のためのテスト作成の視点」  
『教育研究員研究報告書（外国語・英語）』 東京都教育委員会、1989年

『全国大学入試問題正解』（英語・私立大編・国公立大編）  
旺文社、1998年度－2003年度

## 参考資料

以下は、河合塾全国進学情報センターが、2001年度「大学入試問題評価分析資料」で提示した、大学入試問題評価基準である。この大学入試の英語の問題に関する良問、悪問基準はかなり興味深い項目が並んでいる。しかし実際にこの基準に照らし合わせ評価された大学入試問題を見ると、その評価が本当にすべて妥当であるかどうかという点において、疑問の余地を残す評価もないわけではない。このように述べるのは、予備校が良い問題と評価した問題の中にも、「なぜこれが良い問題なのか」と思う問題もあるからである。このように評価というのは、それ自体色々な意見があり難しいことであるが、以下の評価基準は大学入試を考える上で役に立つと思うので参考資料として示す。

## 【大学入試問題評価基準】

### 1. 長文読解問題について

#### 【長文読解問題の評価基準】

##### [A] 素材の英文について

###### ・内容について

- ①現代性もしくは時代を超えた普遍性を備えているか（受験生が読んでもわからない時代錯誤の内容は望ましくない）。
- ②高度すぎたり、逆に極端に幼稚なものになっていないか（現代性あるいは時代を超えた普遍性を備えていても、大学の専門課程で学ぶべき事柄を取り扱った英文を入試の素材として使うのは望ましくない。逆に、初級の英語学習者が読むような内容に終始した英文も望ましくない）。
- ③斬新さを求めるあまり、出題の狙いがわかりにくいものになっていないか（クロスワードパズルを解かせる問題などがここに入る。「長文読解」という範疇にはおさまりにくいですが、便宜上「長文読解」に含めた）。

###### ・語彙水準について

- ④受験生の語彙水準の限界に十分配慮しているか。
- ・論旨展開について。
- ⑤著者の主張が明快であり、かつ、必要な場合には読者の理解を助けるための具体例を織り込んだものになっているか。

##### [B] 設問について

###### ・記述式問題について（下線部和訳については別に項目をたてた）

- ①内容理解の上で、重要な箇所を設問としているか。
- ②解答の根拠が本文中にあり、正解が絞れるか。
- ③指示文が誤解の余地のないものになっているか（例えば、著者が別の論者の文を引用している場合、「著者」がどちらの著者を指しているのか不分明になる）。
- ④解答作成に必要な箇所に難しい語（句）が含まれていないか。難しい語（句）が含まれている場合には、前後から類推可能なものとなっているか。
- ⑤解答該当箇所が他の設問の解答該当箇所と重複していないか。
- ・客観式問題について
- ⑥難しい語（句）の意味を問う場合、前後の内容から類推できるようになっているか。

- ⑦下線部を和訳させる代わりに、和訳選択肢の中から選ばせる場合、英語の力を測れる問題となっているかどうか。
- ⑧内容一致問題の場合、
- (a) ○×の判断の根拠が明確に存在するか。
  - (b) 選択肢の英文が、明快な意味を持ったものとなっているか。
  - (c) 選択肢の英文が、問題文の表現レベル以上のものとなっていないか。
- ⑨空所補充問題の場合、空所の密度が高すぎないか（空所の密度が高すぎると、解答するのに必要な本文理解が困難になる）。
- ⑩その他の形式の設問についても、流れを読みとるのを妨げるほど、設問の密度が高くないか。
- ⑪⑥～⑨のいずれの問題に関しても複数解答がでないよう、十分な注意が払われているか。  
・下線部和訳問題について
- ⑫文構造が複雑すぎないか。
- ⑬内容が受験生に理解不可能な箇所でないか。
- ⑭構造把握、前後の文脈を踏まえた語句の訳出など、明確な狙いが存在するか。
- ⑮難語を含む場合、前後の文脈から意味の類推が可能であるか。
- ⑯斬新さを求めるあまり、狙いが不明確になっていないか（例えば、英文俳句を和訳させるなど）。

[c] 分量について

「問題文＋設問」が解答制限時間内に十分解答可能な量となっているか。

## 2. 会話問題について

今回の分析では、会話問題の形式は取りながらも、文法力や語彙力や読解力だけを試し、会話的要素を全く問うていないような問題は対象から外すことにした。

会話問題の評価にあたっては、そもそもペーパー試験で会話能力を試すことがどの程度可能かという問題を議論する必要があるが、今回はその問題は棚上げにし、会話問題形式によってこそ試しうる能力は何かという観点から分析をおこなった。

### 【会話問題の良問基準】

#### [A] 素材に関して



- ①会話の状況設定および会話の流れが自然である。
- ②頻出する（又は、実用性の高い） 会話表現を含んでいる。

[B] 設問作成に関して

- (D) 素材の会話文をそこなわない形で設問が設けられている。

### 3. 自由英作文について

【自由英作文の良問基準】

- ①試験時間内で無理なく解答することができるもの。
- ②テーマに対する指示語数が適切なもの。
- ③設問の指示が明瞭なもの。
- ④絵や写真を見て、あるいは文章を読んで解答する問題で、その解釈が容易なもの。
- ⑤テーマが受験生の日常とかけ離れていないもの。
- ⑥テーマによる不公平が生じないもの、あるいは複数のテーマから選択できるもの。

【自由英作文の悪問基準】

- ①テーマが大き過ぎたり、指示語数が多すぎて試験時間内で解答するのが不可能なもの。
- ②テーマに対する指示語数が不適切なもの。
- ③テーマが受験生の日常とかけ離れていたり、公平さに欠けるもの。
- ④設問の指示が曖昧なもの。
- ⑤絵や写真を見て、あるいは文章を読んで解答する問題で、それをどう解釈するか悩むようなもの。
- ⑥解答するのに専門的な、あるいは文学的な知識が必要なもの。また、高い語彙レベルが必要なもの。
- ⑦大学の入試問題としては易しすぎるもの。

### 4. 和文英訳について

【和文英訳の良問基準】

- ①問題文の日本語が明解で、論理に矛盾がないもの。
- ②主語が（書き表わされていない場合でも）明確に判断できるもの。

- ③極端な意識を必要としないもの。
- ④訳出に必要な語彙・語法のレベルが高すぎず、高度な技術を要しないもの。
- ⑤内容が専門的あるいは文学的でなく、受験生の日常とかけ離れていないもの。

#### 【和文英訳の悪問基準】

- ①問題文の日本語の意味が曖昧で訳出不能であったり、複数の解釈が可能なもの。
- ②日本語が難解であったり、古風な表現を使っているため、日本語能力を問うような問題となっているもの。
- ③問題文が論理性に欠け、英語に訳すと矛盾が生じるもの。
- ④日本語特有の表現で、英語に訳すのにかなりの意識が必要であったり、表現があまりにも文学的で、訳出するのに高度な技術を必要とするもの。
- ⑤内容があまりにも専門的で、受験生の日常とかけ離れているもの。
- ⑥訳すのに必要な語彙レベルや語法のレベルが高すぎるもの。
- ⑦大学の入学試験としては易しすぎるもの。

### 5. 文法・語法問題について

出題する側としては、受験生にすぐ分かるような問題や受験生によく知られている問題をできれば出したいくないという気持ちがあるだろう。月並みな問題という評価を避けたいという気持ちが出題者には多少ともある。ここに出題者の陥りやすい落とし穴がある。また、英語の何らかの専門家だから、自分で英文を作って出題してもかまわないという意識が出題者にはないだろうか。もしそうだとすれば、辞書などから得られた英文の単語を少し変えて問題文とするということも安易に行われやすいだろう。ここにも出題者の陥りやすい落とし穴が待っている。

問題作成の際に（ネイティブスピーカーのチェックも含めた）入念なチェックをおこなわない限り、以下のような不適切な問題が出題される可能性は決してなくなるのではないだろうか。

#### 【文法・語法問題の良問基準】

- ①文法問題の場合、高校で学習された範囲の内容が問われている。
- ②熟語・イディオムの場合、使用頻度・出題頻度の高い標準的なものが問われている。
- ③語法問題の場合、標準的なレベルの語彙が問われている。
- ④問題文の内容が抽象的あるいは難解のものではなく、その文意が明確なもの。

### 【文法・語法問題の悪問基準】

悪問・難問は一方で良問の評価基準の裏返しとも考えられるが、他方で、悪問・難問にはそれなりの特徴がある。それをいわば悪問・難問の評価基準としよう。

- ①問題を難しくするなどの目的で設定された不用意なダミーの選択肢によって、複数の解答が出てしまう場合。
- ②出題者が月並みでない面白い問題を作成しようとするあまり、あるいはその他の理由から、たとえば語彙レベルの高い表現が使われたり、使用頻度の低い熟語・イディオムが問われたりして、受験生にとっての難問が作成されてしまう場合。
- ③問題文に不備がある場合。英文としての不備としては・文法上の誤りがあるもの・表現になんらかの不足があるものなどが考えられる。出題者の思い込みや不注意、あるいはひょっとして無知に原因がある。
- ④語句整序問題一位置を決めることのできない語（句）が含まれていたり、ある語（句）が2つの位置のどちらでもよい場合。また、表現上のポイントが3つないし4つ含まれていたり、難解な表現が問われていたりする場合には難問となる。
- ⑤誤りの箇所を指摘する問題－NO ERROR（または「誤りなし」）の選択肢をつけることによって、正誤の基準が曖昧になる場合。あるいは、不用意な下線の引き方によって、複数の解答がでる場合。

### 参考文献

『2001年度 大学入試問題評価分析資料』 河合塾 全国進学情報センター

# 大学の出題者は受験英語をどう考えているか

羽井佐昭彦（千葉工業大学教育センター助教授）

## はじめに

入試問題は、本来、大学が欲しい人材を選別するために、受験生の学力レベルを測ることが目的だと考えられる。しかし、入試の出題傾向が実際に高校の英語教育に大きな影響を与えてしまうことは否めない。「受験英語」が英語のコミュニケーション能力を阻害する要因であるとして、英語を入試科目からはずすべきだという極端な意見さえもある。今回の発表では、最初に、現在の入試問題出題形式を分析し、いわゆる「受験英語」とは何かについて考える。次に、アンケート調査を通して、入試問題を作成する側として、どのような視点で入試問題作成にあたっているかについての分析を試みる。最後に、その2つの分析を通して、入試問題が高校の英語教育に与える影響を考察し、今後の課題を提案する。

## 1. 問題提起

- (1) 受験英語は、高校生の語彙、語法、文法、読解の基礎的能力向上には役立っているのではないか。
- (2) 受験英語は、読解力におけるスキミング・スキヤニングを含めた速読の能力向上には貢献していないのではないか。
- (3) 受験英語によってバランスの取れた英語の4技能の育成は損なわれているのではないか。
- (4) 英語の4技能育成のアンバランスを是正するためには受験英語にリスニングテストの導入が不可欠なのではないか。

## 2. 「受験英語」とは？

### 2.1 2002年度・大学入試センター試験（外国語の受験者数：550,203人）

#### (1) 出題形式

- ① アクセント問題（単語のアクセント、会話でのストレスの位置）〈発音・談話〉
- ② 選択完成問題と語句整序問題（文レベルでの語句や会話での英文の補充、語句の並べ替え）〈語彙・語法・文法・談話・作文〉
- ③ 談話完成問題（パラグラフ内の語句や英文の補充、英文の整序）〈読解、談話〉
- ④ 長文読解（グラフや数字を扱った文章の内容把握）〈読解〉
- ⑤ 会話文の読解問題（空所への英文補充、内容把握）〈読解、談話〉
- ⑥ 長文読解問題（エッセイを扱った文章の内容把握）〈読解〉

(2) 傾向

- ① 語彙、語法、文法、読解の問題が主流である。
- ② 読解問題は標準的なレベルで、考えさせる問題、スキミング・スキニングの能力をみる問題、ディスコースの能力をみる問題など、工夫が凝らされている。
- ③ オーラル・コミュニケーションへの対応として、ディスコースを重視した、アクセント問題、会話問題が出されている。
- ④ 読解する量が多いため、文法訳読式だけではなく、英語を英語で理解する力も求められる問題となっている。

2.2 2002 年度・私立大学入試問題（117 大学）の出題形式の分析

〈全国大学入試問題正解・英語・私立大学編（旺文社）の問題を分析〉

(1) 出題形式の分析

- ① 読解問題（116 大学：99.2%）〈読解・語法・文法〉  
種類：空欄補充などが含まれた総合問題（67 大学：57.3%）  
空欄補充などを含まない内容把握問題（49 大学：41.9%）
- ② 選択完成問題（74 大学：62.9%）・・・語句の空欄補充（語彙・語法・文法）
- ③ 会話空所補充問題（72 大学：61.5%）・・・会話内での語句や文の空欄補充  
（読解・談話）
- ④ 語句の整序問題（66 大学：56.4%）・・・語句の並べ替え問題（語法・文法・作文）
- ⑤ 談話完成問題（30 大学：25.6%）・・・パラグラフ内の語句や文の補充  
（読解・談話）
- ⑥ 語句の一致選択問題（22 大学：18.8%）・・・語句の意味の特定（語彙）
- ⑦ 発音問題（17 大学：14.5%）・・・同じ発音や異なる発音の特定（発音）
- ⑧ 文中の語句正誤問題（15 大学：12.8%）・・・誤った個所の特定  
（語彙・語法・文法）
- ⑧ 和文英訳問題（15 大学：12.8%）・・・（表現・作文）
- ⑨ 英文和訳問題（12 大学：10.3%）・・・（訳読）
- ⑩ アクセント問題（10 大学：8.6%）・・・第一アクセントの位置の特定（アクセント）

- ⑩ 連立完成問題 (10 大学 : 8.6%) ・ ・ 2 文が同じ意味になるよう空所補充  
(語彙・語法・文法)
- ⑪ 文の正誤問題 (8 大学 : 6.8%) ・ ・ 英文として正しくない文の選択 (語法・文法)
- ⑫ 会話文の整序問題 (7 大学 : 6.0%) ・ ・ 会話として成り立つような文の並べ替え  
(読解・談話)
- ⑬ 会話文の読解問題 (6 大学 : 5.1%) ・ ・ 会話を読んで内容把握 (読解)
- ⑬ リスニング問題 (6 大学 : 5.1%)
- ⑬ 自由作文問題 (6 大学 : 5.1%)

## (2) 出題方式の分析

- ① 全問マークセンス方式 (91 大学 : 77.8%)
- ② ほとんどマークセンス方式で一部が記述式 (25 大学 : 21.4%)
- ③ ほとんど全てが記述式 (1 大学 : 0.9%)

## (3) 全般的な傾向

- ① 全体的に、長文読解問題を中心に、語彙、語法、文法問題が多く、長文読解問題の中でも、内容把握問題の他に、語彙、語法、文法の問題が複合的に織り込まれている。
- ② 難易度は、全体的にセンター試験のレベルのものが多く、高校の教科書を考慮した標準的なものになっている。しかし、大学によっては、かなり難しい長文読解問題が課されている。
- ③ オーラル・コミュニケーション科目に対応して、会話形式の文章を扱った問題が多く課されているが、筆記試験という制約から、結局読解問題となっている。
- ④ 発音問題やアクセント問題はあまり出題されていない。
- ⑤ リスニング問題を課している大学は少ない。課している大学は、そのほとんどが英文・英語専攻の学科である。
- ⑥ エッセイ・ライティングを課している大学は少ない。
- ⑦ ほとんどの出題がマークセンス方式によるものである。

## 3. 大学入試問題の作成者側の意識

### (1) アンケート項目

- ① 受験英語 (大学入試問題) は、高校での英語教育に大きな影響を与えると思うか。
- ② 受験英語 (大学入試問題) は、高校での英語教育に悪い影響を与えていると思う

か。-- 与えていると思う根拠、与えていると思わない根拠

- ③ 大学入試問題は、高校の英語教育に与える影響を考慮して作成すべきだと思うか。
- ④ 大学入試問題を作成する際に、実際に、高校での英語教育に与える影響を考慮して作成しているか。-- どのようなことを考慮して作成しているか、考慮して作成していない場合の理由
- ⑤ 実際に作成している大学入試問題の出題形式は、毎年、同じか。-- 同じである理由、同じでない理由
- ⑥ 現在実施している大学入試問題の出題形式を変えたいと思うか。
- ⑦ 現在実施している大学入試問題の出題形式を変えることは難しいと思うか。
- ⑧ 多くの大学の入試問題にリスニングが含まれたら、高校生のリスニング能力は全体的に向上すると思うか。
- ⑨ 多くの大学の入試問題にエッセイ・ライティングが含まれたら、高校生の発信型コミュニケーション能力は向上すると思うか。
- ⑩ 現在実施している大学入試問題にリスニングやエッセイ・ライティングを含めたいと思っても、実行に移すことは現実問題としてかなりむずかしいと思うか。

(2) アンケート調査のまとめ（アンケート結果資料を参照）

- ① ほとんどの入試問題作成者は、受験英語が高校での英語教育に大きな影響を与えていると考えている。
- ② 受験英語の弊害については、どちらかと言うと、悪影響を与えていない、という意見の方がやや多かった。その主な理由としては、受験英語によって、基本的な語彙、文法、読解力が養われるというものであった。
- ③ 一方、受験英語が悪影響を与えているという意見もあり、その主な理由は、4技能の育成という点でバランスを欠いているというものであった。
- ④ 受験英語が悪影響を与えているか否か、という二者択一的な捉え方ではなく、実際には、功罪の両面がある。
- ⑤ ほとんどの入試問題作成者は、高校での英語教育に与える影響を考慮して入試問題を作成すべきだと考えているが、実際にその影響を考慮して作成している出題者は60.7%であった。
- ⑥ 出題形式は、どちらかと言うと毎年同じという傾向があり、適度に変更を加えるという程度に留まっている。その主な理由は、受験生確保のために、混乱を与えないようにしていること、現在の入試問題で特に問題はないと考えていること、であった。
- ⑦ 現在の出題形式を変えたいか否か、また出題形式を変えることが難しいか否かについての意見は、ほぼ半々に分かれ、拮抗したものであった。

- ⑧ 多くの出題者は、リスニングやエッセイ・ライティングを入試問題に含めたら、高校生のリスニング能力、発信型コミュニケーション能力が向上すると思っているが、実際に実施することは難しいというのが現状である。

#### 4. 入試問題が高校の英語教育に与える影響

- (1) 最近の入試問題は、読解、語彙、語法、文法といった重要項目の習得を測定する点では概して良識的なものであり、読解力の養成という観点では高校生の英語学習意欲を高める要素となっている。
- (2) 一方で、読解問題においては分析的な読み方を必用とする総合問題も多く、文法訳読法への偏りを助長する要素になっているとも思われる。
- (3) 入試問題におけるリスニングの比重は極めて少ないため、リスニング能力を鍛えようとする意欲の低下につながると考えられる。
- (4) マークセンス方式の出題が多く、課題作文や自由作文といった思考力、創造力を使う問題の比重が少ないことは、受動的な英語学習を助長しているように思われる。

#### 5. これからの受験英語のあり方についての提案

- (1) 語彙、語法、文法は、英語の4技能を高めるうえで全ての基礎となる重要な要素なので、入試問題においては今後も重視されるべきである。ただし、高校の検定教科書で扱われている語彙や文法項目を考慮して作成し、日常使われない古典的な表現、難解な語法、例外的な使用例は極力避けるべきである。
- (2) 読解力は学校教育における知的活動の最も重要な位置を占めるものであり、読解力向上という点で高校生の学習意欲を高める良識的な長文読解問題が望まれる。
- (3) 読解問題に関しては、思考力を働かせて分析的に読む問題と速度によって内容把握をする問題の両方があることが望ましい。
- (4) 大学入試センター試験でのリスニング導入に大いに期待したい。実施において、偶然性による点数の揺れも考慮し、リスニングの比重（出題数）は、高く設定する必要がある。また、内容については、日常会話から大学の講義レベルのものまで段階を追った出題形式が求められる。
- (5) 入試でリスニングを課さない大学も、センター試験のリスニング試験の結果を考慮する方向性が出てくることを期待する。



## おわりに

今回の調査では、問題作成者の意識として、受験英語が高校での英語教育に悪影響を及ぼしているという意見は決して多くないということが分かった。むしろ、入試レベルの語彙、語法、文法、読解力は必要不可欠なものであるという認識が見られた。その一方で、英語の4技能の育成という点では高校の英語教育でのアンバランスを産んでいる可能性もあり、入試問題が必ずしも好ましいものではないといったジレンマも感じられた。受験英語に功罪の両面があるように、入試問題作成者の意識もその狭間で揺れが見られた。筆者としては、センター試験での良質なリスニング試験の導入が、リーディング中心というアンバランスを是正する突破口となるのではないかと考えている。この意見には賛否両論があると思うので、シンポジウムでの活発な意見交換を期待したい。

## 資料

### 大学入試問題作成者側の意識調査アンケートの結果

(回答者数：大学の英語担当教員 28 名<男性 16 名、女性 12 名>)

- (1) 受験英語（大学入試問題）は、高校での英語教育に大きな影響を与えると思うか？  
はい（27 名：96.4%）      いいえ（1 名：3.6%）
  
- (2) 受験英語（大学入試問題）は、高校での英語教育に悪い影響を与えていると思うか？  
はい（10 名：35.7%）      いいえ（15 名：53.6%）  
どちらとも言える（3 名：10.7%）<回答項目になし>
  
- (2-1) 受験英語が高校での英語教育に悪い影響を与えていると思う根拠
  - ① 高校での英語学習が語彙、文法、読解に偏ってしまう。（7 名：25%）
  - ② 高校での英語学習で、発話やライティングといった発信型英語能力の育成がおろそかになる。（7 名：25%）
  - ③ 高校での英語学習で、コミュニケーション能力育成の弊害になる。（7 名：25%）
  - ④ その他
    - \* プレッシャーで英語が楽しめなくなってしまう。

- \* 大学教員の英語力がバランスを欠いているため、入試問題が4技能のバランスをふまえた語彙、構文、文章構成となっていない場合がある。
- \* 語彙、構文、文章構成などの難易度に関する大学教員の判断に問題があり、母語話者の大学生でも難しい問題になってしまうこともあり得る。

(2-2) 受験英語が高校での英語教育に悪い影響を与えていると思わない根拠

- ① 受験英語があるから、高校生は、重要な語彙や文法を一生懸命学習する。  
(12名：42.9%)
- ② 受験英語を勉強することによって高度な英文読解能力が養われる。  
(11名：39.3%)
- ③ 最近の大学入試問題では、その学習により、知的活動に必要な基本的能力を養うことのできる良識的な問題が出されている。(9名：32.1%)
- ④ その他
  - \* コミュニケーション能力向上ということで基本的な構文・文法・語彙力がおろそかにされており、近年この能力の低下はおびただしい。受験英語がその歯止めになっている。
  - \* 受験に必要な知識は、最低ラインのものだと思う。今のやり方は、英語に接する機会の少ない環境においては、効率的な方法だと思う。
  - \* 高校の英語教育に一つの目標を与えている。
  - \* リスニングを別にすれば、将来サラリーマンになった場合に必要な TOEIC の問題に対応できる。特に TOEIC の文法問題は 99% 受験英語に対応している。
  - \* 大学入試のための勉強を通して、文法、語彙、読解力などの力が養成されるとともに、社会人に成長するための素養も身に付く。

(3) 大学入試問題は、高校での英語教育に与える影響を考慮して作成すべきだと思うか？

はい (25名：89.3%)    いいえ (3名：10.7%)

(4) 大学入試問題を作成する際に、実際に、高校での英語教育に与える影響を考慮して作成しているか？

はい (17名：60.7%)    いいえ (6名：21.4%)    無回答 (5名：17.9%)

(4-1) 大学入試問題を作成する際に、高校での英語教育に与える影響を考え、どのようなことを考慮して作成しているか？

- \* 高校での履修範囲を逸脱しないように検定教科書を参考にしている。

(9名：32.1%)

- \* コミュニケーション能力（基本的英語運用能力）を測る試験問題を出題している。(3名：10.7%)
- \* 断片的な文法知識を問うのではなく、文脈全体理解のための文法知識・語彙力、題材の趣旨理解を問うように心がけている。
- \* 単なる暗記ではなく、論理的な思考力、読解力を試す問題作りをしている。
- \* 大量の英語を早く読んで内容を把握する力を問う問題にしている。
- \* TOEICなどの問題形式を参考にしている。
- \* 語彙、文構造が難しくならず、かつ内容の濃い英文を選ぶ。
- \* 語彙の範囲と内容との整合性を考えて作成している。
- \* 出題形式が偏らないように、様々な種類の問題を作るようにしている。

(4-2) 大学入試問題を作成する際に、高校での英語教育に与える影響を考慮して作成していない理由

- \* 入試問題は基本的に、大学での授業についていけるかどうかを見るためのものであるので、高校の英語授業までは勘案していないのが実情。(2名：7.1%)
- \* 出題形式の大きな変更が難しいため。(2名：7.1%)
- \* 英語を選択する受験生が極めて少ないため、基礎的な英語力を見ることができればいいと考える。
- \* 高校の英語教育については、高校、大学を含めた教育界全体で考えるべき問題であり、一大学が問題傾向を変えても全体が変わらなければ、影響はない。

(5) 実際に作成している大学入試問題の出題形式は、毎年、同じか？

はい(17名：60.7%) いいえ(8名：28.6%) 無回答(3名：10.7%)

(5-1) 大学入試問題の出題形式が毎年同じである理由

- ① 受験生確保のために、混乱を与えないようにしている。(11名：39.3%)
- ② 入試作成担当者間で、変えようという提案も話題も出てこない。(4名：14.3%)
- ③ 現在の入試問題形式で特に問題はないと考える。(10名：35.7%)
- ④ その他
  - \* 問題作成、採点などにさける労力を現実的に考えると、ある程度の改善を加えると言う所に落ち着いている。(2名：7.1%)
  - \* リスニングがないことを除いては、基本的な英語力をみるという点で、現在の入試で特に問題はないと考える。(2名：7.1%)
  - \* 現在の形に変えた当初は高校側にもとまどいがあったが、現在は逆に基本的

な事柄を使わせて短い英文を書かせるという形式に支持を得ている。

- \* 無難に行きたいという守りの姿勢、新たな入試を検討するエネルギーがないのが実情。

(5-2) 大学入試問題の出題形式が毎年同じでないことの理由

- \* 毎年同じ出題形式では、容易に出題傾向を予想することもできるので、公平さを重視するためにも毎年なるべく出題形式を変えている。(2名7.1%)
- \* 作成者が異なるから。(2名：7.1%)
- \* マンネリにならないよう、様々な種類の問題を出すようにしている。
- \* 同じ部分もあるが、作問委員によっては過去の問題を参考にしながら多少独自色を出している。

(6) 現在実施している大学入試問題の出題形式を変えたいと思うか？

はい(13名：46.4%) いいえ(13名：46.4%) 無回答(2名：7.1%)

(7) 現在実施している大学入試問題の出題形式を変えることは難しいと思うか？

はい(13名：46.4%) いいえ(11名：39.3%) 無回答(4名：14.3%)

(8) 多くの大学の入試問題にリスニングが含まれたら、高校生のリスニング能力は全体的に向上すると思うか？

はい(24名：85.7%) いいえ(4名：14.3%)

(9) 多くの大学の入試問題にエッセイ・ライティングが含まれたら、高校生の発信型コミュニケーション能力は向上すると思うか？

はい(20名：71.4%) いいえ(8名：28.6%)

(10) 現在実施している大学入試問題にリスニングやエッセイ・ライティングを含めたいと思ったとしても、実行に移すことは現実問題としてかなりむずかしいと思うか？

はい(23名：82.1%) いいえ(5名：17.9%)

## 参考文献

- 「2003年受験用 全国大学入試問題正解（英語・私立大編）」、旺文社、2002年
- 「国際シンポジウム 問題作成からみる大学入試」配布資料、独立行政法人 大学入試センター、2002年
- 「高等学校英語始動要領解説 外国語変 英語編」、文部省、1999年

# ビジネスの世界から見た受験英語

森 千佳子 (東京純心女子大学講師)

## はじめに

昨今では「使える英語」「実用英語」は英会話力だと信じられている風潮があるようですが、はたしてそうでしょうか？私は実社会で必要とされている英語とはどのようなものかを探ることによって、いわゆる「実用英語」の実態を見極め、「受験英語」との関係を考えたいと思いました。まず12年間に及ぶ外資系銀行での私の勤務経験を振り返った後、英語を使って仕事をしている方々へ行なったアンケート調査の結果をお伝えいたします。

## 1. 私の就労経験より

私が勤務しておりました職場はドイツ系ではありましたが、社内文書はすべて英語で書かれており、ドイツ人スタッフも流暢な英語を操っておりました。また、所属していた「資金部」は行内でも比較的英語を日常的に使っていた部門でした。担当させていただいた業務は①資金の調達と運用、②外貨の売買、③外信の分析、④本店が発行していた月例報告書（英文）の和訳などでした。①と②に関しては電話を使うこともありましたが、ほとんどが今で言うEメールのような機械で交信していました。すなわち、英文を読んだり書いたりすることによって通貨取引を行っていました。③は刻々と配信されるロイター電などの外信の中から重要な情報を拾い出して分析をいたしました。よって、速読と概要把握の能力が必要とされました。④は英文和訳ですので、英文の正確な内容理解力が求められました。このように振り返ってみますと、日本で働く場合では、外資系であっても「聞く」「話す」という能力より「読む」「書く」力の方が求められているのではないかという漠然とした考えが浮かんでまいりました。そこで、現在、実際に英語を使って実社会で働いていらっしゃる方々にアンケート調査を行うことにいたしました。

## 2. アンケート調査

ここでは、アンケート調査の方法と結果について述べさせていただきます。以下がアンケート用紙です。



★データ収集方法： 以前の同僚を中心にEメールの添付ファイルで回答を得ました。

★回答者数： 18名

★項目ごとのアンケート結果：

1. 20代 1名、 30代 7名、 40代 7名 50代 2名
2. 読解問題 8名 語彙や文法 5名 英作 4名  
リスニング 1名 マークシート 2名 (複数回答)
3. 外資系金融機関 7名 外資系製薬会社 1名 外資系 1名  
メーカー 3名 その他 5名 (通信、報道、サービス、人材)
4. 四技能別の英語使用時間数の合計：

(1) 英語を話した時間 53時間  
外資系 37時間 (通訳、海外オフィスとの連絡、電話、会議)  
報道 14時間 (外国通信社との交渉など)  
その他 2時間 (打ち合わせなど)

(2) 英語を聞いた時間 74時間  
外資系 61時間 (通訳、海外オフィスとの連絡、電話、会議)  
報道 11時間 (CNNなど)  
その他 3時間 (打ち合わせなど)

(3) 英語を読んだ時間 120時間  
外資系 112時間 (社内回覧、資料、Email、翻訳)  
報道 3時間 (英字新聞など)  
その他 5時間 (英文履歴書、技術文献、インターネット)

(4) 英語を書いた時間 74.5時間  
外資系 67時間 (メール、翻訳、リクエスト対応)  
報道 3時間 (通信社とのやりとり)  
その他 4.5時間 (メール、書類、仕様書など)

5. 受験英語が役立っている： 11名

\* 通じる英文が書けて読めるのは、受験英語で文法のルールや単語を学んだから。受験英語で基礎力がついた。 (7名)

\* 覚えた単語の中には実際に便利な言い回しなどがある。

\* 長文読解は、集中して文章を読むというトレーニングになった。



\* 業務で使うには会話ではなく読み書きが重視される。英語の慣用句も精神的にプラスになる。

\* 予備校で習った読解方法（長文を節ごとに訳し下す）は有益だった。

受験英語は無駄である：

6名

- \* 中高の授業内容は役立ったが、受験用の英語は実用とは程遠い。英語は「使う」ことに意味があるので実技重視がよい。
- \* 職場では、より実務に即したビジネス英語が必要。自分の考えを表現する英語力の必要性も実感しているので学校教育で自分の考えを主張し表現をするための時間を割くべきである。
- \* 帰国子女でなければ英語が話せるようにはならない。受験英語では英語が自由に操れるようにはならないと思う。
- \* 語彙、イディオム等をひたすら覚えたり、読解力をつける勉強方法が多く、Speaking における使い方や組み合わせ方がわからず、実際社会に出て役に立たなかった。リスニングのこつも必要。
- \* 古典的な文法や語彙の暗記は実社会では役に立たない。実践的な英会話やビジネス英語を勉強したかった。

### ★分析

個々の四技能に費やした時間に関しては、読んだ時間が一番長く、書いた時間、聞いた時間と続いていた。受験英語を肯定する主な理由は読み、書き、文法の英語の基礎力がついた、などであり、否定的な意見の理由としては、会話に役立たない、実践的でない、というものであった。

### 3. 読解問題の内容について

アンケート回答者の中で受験英語の内容は古典的である、との批判がありましたが、最近の動向はどうでしょうか。駿台文庫「時事英文問題演習」の序文で高橋善昭氏は、入試問題の変遷について次のように述べています。

大学入試に使われる英文はこの数十年でさまざまな変遷をたどってきている。まず出典という面からは、「小説・随筆」など文学ジャンルの英文が主体であったものが、言語。文化。教育・歴史・経済・読書・人生・文学などについて論じた「評論文」が圧倒的な時代となった。しかし、最近の傾向としては、情報伝達を旨とする新聞・雑誌の英文—— いわゆる「時事英文」がますますその比重を高め

つつある。

## おわりに

今回の調査は諸般の事情により回答数が限られてしまい業種も偏っておりますが、ある程度の目安となれば幸いです。実社会で必要とされる英語力は、単なる日常会話を超えた、しっかりとした基礎力に根ざしたものであり、精読力、概要把握力、速読力など、状況に応じた様々な読解力が要求されるようです。この面では、受験英語は肯定的に捉えられていました。また、受験英語の欠点として、自分の意見を表現する力を試していない、実社会で役立つスピーキング表現やリスニングのコツを習わなかった等が挙げられましたので、今後の課題かと思われます。読解問題の内容については時事英文の比重が増えていることから、20年以上前に受験を経験した40代、50代の方々の捉え方と変わっていると思われます。

## 参考文献

高橋善昭、『時事英文問題演習』、駿台文庫、2000年

# 受験英語の功罪：これからを考える

糸井江美 (文教大学文学部講師)

## はじめに

高校、大学、そして企業の立場から受験英語の功罪を考えてきました。ここではわれわれ英語教育関係者が今後「功罪」の「功」をいかに伸ばし、そして「罪」をいかに消し去るか、その具体的な対策を考えてみたいと思います。その為にまず悪問と呼ばれる入試問題をいくつかの出版物から具体的に提示します。そして、悪問を作らないためにはどんな人間が入試問題を作ればいいのか、良問とはいったいどんな問題なのかを考えてみます。次に、文部科学省が発表した「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想を踏まえながら、大学入試センターテストにリスニングテストを取り入れることの利点と問題点を指摘します。最後に「受験生に優しい」大学になるための具体的な対策を考えたいと思います。

## 1. 悪問とは

今から30年近く前に起こった平泉渉と渡部昇一の「英語教育大論争」を覚えていらっしゃいますか？ 当時参議院議員であった平泉は「外国語教育の現状と改革の方向 — 一つの思案—」で日本の英語教育が効果をあげていないのは、日本では英語が使えなくても生活には不便しないし、受験のために強制的に英語を勉強させているからだと批判しました。それから30年経った今日でも、英語教育の目的は、実用英語なのか教養英語なのかという議論は存在しているものの、現場の多くの教師は（中学、高校、大学を問わず）日々の授業準備やテスト作り、採点、そして生活指導や委員会など数限りない雑用に忙殺され、英語教育の目的などを考えるゆとりもないのが現状です。そんな多忙な環境の中から生まれてしまうのが悪問だといえるかもしれません。具体的に問題を見てみましょう。

大学入試センター試験 2000年1月15日

第2問 B

次の問い（問1～4）の会話の[20]～[23]に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1

A: *Could I possibly see you at your office after lunch?*

B: [20]

A: *I'd like to talk about tomorrow's meeting.*

- ① *No, never mind.*
- ② *No, not at all.*
- ③ *Yes, certainly.*
- ④ *Yes, completely.*

問2

A: *Be sure to visit my family while you're in London.*

B: *I'd love to. In fact, do you think I could stay with them for a couple of days?*

A: [21] *I'm sure they'd be delighted to have you.*

- ① *How come?*
- ② *How could you?*
- ③ *Why not?*
- ④ *Why on earth?*

問3

A: *Go down Main Street and turn left at the first corner. Then walk two blocks and you'll see the library just in front of you.*

B: [22]

A: *That's right.*

- ① *Do you think I can find the library easily?*
- ② *Is what you're saying right?*
- ③ *Main Street, first left, two blocks. Right?*
- ④ *The library on the right.*

問4

A: *I have to meet Mr. Longman tomorrow at noon.*

B: [23]

A: Mr. Longman. Don't you know him?

- ① Do you know when?
- ② How do you know?
- ③ Meet who?
- ④ What for?

以上の問題を木本(2000)は、もともと音声を紹介して理解するものである会話を活字にして、受験生が何度も読み返して答えたとしても無意味だと指摘しています。会話というものはイントネーション、リズムが大切な要素を含んでいて、それなしでは十分な意味は伝わりません。筆記試験で会話力を測ることに限界があるでしょう。発音やアクセントに関する問題も同じことが言えます。ある単語のアクセントが置かれる位置を正しく答えることができたとしても、その単語を実際に正しく発音できるかどうかとは関係ありません。

少し古い問題ですが 1984 年の共通一次試験問題 「英語 B」からの例です(木本、2000、p84)。

V 各文を読み、その内容に最もよく合っているものを一つ選ぶ問題  
問3 (c)

*She then carried the bowl into the living room and placed it in the middle of the coffee table that stood in front of the sofa.*

- ① *Jane placed the roses on the coffee table in the middle of the room.*
- ② *Jane placed the coffee table in the middle of the room.*
- ③ *Jane arranged the roses in the living room.*
- ④ *Jane placed the roses where people sitting on the sofa could see them.*

正解は④ということなのですが、私には問題の意味がさっぱり分からないのですが、みなさんはいかがですか？ 木本(2000)はこの他にも多くの奇問、難問を紹介しています。詳しい内容は、研究社『現代英語教育』1980年7月号、1981年5月号、1987年4月号、大修館『英語教育』1984年5月号、1985年4月号に載っています。大内(1986)は高校入試英語の悪問を具体的に紹介しています。開成高校や灘高校などの難しすぎる問題は、英語の教師でさえ手こずるものです。

## 2. 入試問題は誰が作るか？

なぜ入試問題に（英語の科目に限らず）悪問、奇問、難問がでるのでしょうか。入試問題を作っている人の多忙、能力不足、やる気のなさ、受験生への嫌がらせ、自己顕示などさまざまな理由が考えられます。丹羽(2001)が指摘する入試問題に悪問が増えた理由は、1) 高校の教育課程を研究し、高校の現場感覚を持っていた大学教養部の解体によって専門外のスタッフが入試問題を作成するようになった； 2) 私立大学入試の多様化・複雑化という入試を取り巻く構造体の変化により作成本数が増加した； 3) 閉鎖的な環境により、高校教育の実態の認識不足が起こっている； 4) 入試問題作成は研究活動より低い評価で、惰性的に問題を作成している； 5) 短期間で公平で大量の採点が必要なために客観的な問題にシフトした。

確かに大半の大学教員が中学や高校での教育に無知、無関心であるように思われます。多くの私立大学が付属の中学や高校を持っていますが、どのぐらいの大学や高校が相手の教育事情が分かるような研修や交流を行っているのでしょうか？ 受験生獲得にやっきとなっている大学では、高校生向けの公開授業や出張授業を行っているところが増えてきていますが、どうしても表面的に取り繕ったカオを見せるだけに終わっているようで、お互いが抱えている教育上の問題までは見えてこない、いえ、見せないことが多いようです。

そんな中で、東京の桜美林大学では「高大連携」と名を打って高校との教育交流を深めています。ここでは、単なる公開授業ではなく、もう一步踏み込んで高校生が交流授業で修得した単位を入学後に認定するような動きもあるようです。桜美林大学での新しい試みが今後他大学にも広がっていくと、いままで不十分であった大学と高校の交流が盛んになり、入試問題の作成にも好影響を及ぼすと期待されます。

丹羽が次に指摘する私立大学入試の多様化・複雑化は、大きな問題を含んでいます。地方入試制度はずいぶん前からあったと記憶していますが、今ではある大学を例に取ってみると、AO入試、推薦入試、公募推薦入試、同窓会員子女推薦入試、一般入試（A方式のⅠ期、Ⅱ期、B方式のセンター試験利用）とますます複雑になっています。当然のことながら、複雑化、多様化に伴い、入試問題作りには適任でない大学教員も安い手当てで入試問題作成に関わらなくてはならない構図が出来上がっているのです。

今後もこの複雑な入試方式が続くとすれば、いったい誰が入試問題を作ればいいのでしょうか？ プロを自任する予備校にお任せすることを決めた大学もあるようです。適任者がおらず、予算があるのなら予備校に入試問題作りを任せるのも一つの選択肢でしょう。しかし、大学内部から人材を育てていく努力を怠っては、いつかは入試問題作り以外の教育のあらゆる場所を予備校に任せてしまう、あるいはもっと辛らつな言い方をすれば乗っ取られてしまいかねません。事実、ある大学では補修授業を予備校が行っているのですから。

後に詳しく述べますが、文部科学省は平成 14 年夏の『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」の中で、入試を改善する施策として大学入試センター試験でのリスニングテストの導入、各大学の個別試験における外国語試験の改善・充実、外部試験結果の入試での活用促進を挙げています。二つめで取り上げられた外国語試験の改善・充実がどうすれば具体的に行われるのかは、個々の大学が頭を絞らなくてはならない課題ですが、私は、まともな入試問題を作れる人材を育てるために時間とお金をかけるしかないと考えています。教育のことは何も知らなくても大学教員になれてしまう矛盾。テストの知識はまったくなくとも、入試問題を作ってしまう無謀さ。そしてもっとも問題なのが、どんな学生を受け入れて、どんな学生に育てたいのかという理念なく、過去の問題形式を踏襲しているだけの問題作り。悪問を作り出してしまう悪循環をどこかで断ち切る必要があるのです。

では具体的にどんな人間がどんな問題を作れば良問と呼ばれる入試問題が作れるのでしょうか？ 丹羽は問題作成者の条件として、1. その教科科目の学識が深く； 2. 高校教育課程に精通しており； 3. 生徒の状況を把握しており； 4. 機密を守れる人格であり； 5. 機密が濫洩されるような環境にいないことを挙げています。私はこれにテストの知識と教育に対する理念、そして受験生に対する思いやりの心を持っていることを付け加えたいと思います。

### 3. 良問とは？

澤井(2001)によると入試問題の良問とは、1) 解答がきちんと出る； 2) これまでの学習成果を真剣に問うている； 3) 勘ではなく思考力を働かせれば解けるもの； 4) 量より質を重視したもの； 5) どういう種類の、どういう志向・適性・学力を有した生徒がほしいかがわかる、大学の個性を打ち出した水準と性質を持っているもの； 6) 平均点が100点満点なら50点程度に落ち着くもの、と6つの条件をあげています。1)の解答がきちんと出るかどうかは、複数で問題を作成し、実際に出題者以外の者が解いて見ることである程度解決できると思われまます。2)に関しては、先ほども述べたように高校の教育課程や状況を知っているかどうか問われているわけです。高校で使っている教科書を研究したり、実際に高校の英語教員と交流したり、高校の授業に参加してみたりすることで今の状況は改善されるでしょう。3)、4)、6)になると経験だけでなくテストの知識が必要となってきます。5)に関しては個人で決められることではありません。教員同士が話し合い、大学としてどんな学生を取りたいのか、どんな英語教育を提供するのかを決める。これが実は一番難しいことだと思います。なぜ難しいのか。それは「学生は何のために英語を勉強しているのか、教養の為なのか、実用の為なのか」という一番基

本的なことに対する合意さえ無い場合が多いからです。他の大学がやっているから遅れをとらないようにと、TOEIC 受験対策を英語教育の柱にして、700 点到達を目標に頑張る！というのが現状です。受験英語が終われば、次に学生を待っているのが TOEIC というのではあまりにもさびしい大学英語教育ではありませんか。

具体的に悪問と良問を比較してみましょう。丹羽(2000)の内容に重なる部分も多いのですが、河合塾のホームページ(<http://www.keinet.ne.jp>)には受験に関わるものにとっては有益な情報が満載です。そのホームページに紹介された静岡大学の 2000 年と 2001 年の自由英作文の問題です。さて、みなさんはどちらが悪問でどちらが良問だと思われますか？

#### 2000 年度入試問題

日本の千円札を頭の中にイメージしてください。あなたがイメージした千円札について、例えばその表・裏のデザインなどを 100 語程度の英語で書きなさい。

#### 2001 年度入試問題

中学生、高校生の中には、かなりの時間をクラブ活動に費やす生徒がたくさんいます。クラブ活動をする事、またはクラブ活動をしないことの利点や欠点について、英語(約 120 語)で自由にエッセイを書きなさい。

どれだけの人が千円札をイメージすることが出来たでしょうか？ 思い出そうとしているうちに時間は無駄に過ぎていくだけです。たとえすぐにイメージできたとしても、それを英語にする意味はあるのでしょうか？ 2001 年のクラブ活動に関するテーマは、受験生がたとえクラブに入っていないなくても答えることができ、誰もがある程度の背景知識を持っている公平な出題だと思われます。前述の澤井の挙げた 6 つの条件の他にも、どの受験生にもできるだけ公平な問題であることも大切な要素だといえます。

#### 4. 「英語が使える日本人」の育成

われわれ教育関係者はいやでも文部科学省の方針に左右されてしまいます。平成 15 年 3 月に発表された文部科学省による「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」では、達成目標として国民全体に求められる英語力が具体的に設定され(中学校卒業段階で英検の 3 級程度、高校卒業段階で英検準 2 級～2 級程度)、大学では仕事で英語が使える人材育成を目指し達成目標を設定することとなっています。また、目標達成のための行動としては、1) 英語の授業を改善し、2) 英語教員の指導力を向上させ、3) 英語学習へのモチベーションを高め、4) 入学者選抜等において評価を改善し、5) 小学校の英会話活動を支援し、6) 国語力の向上にも力を入れる、という 6 つの柱があげられています。

この中で特に受験英語と関係するのは、4) の入学者選抜等における評価の改善です。



ここでは2つの目標が挙げられています。(聴く及び話す能力を含むコミュニケーション能力を適切に評価する。大学や高校入試において、リスニングテスト、外部検定試験の活用を促進する。)

具体的には、まず大学入試センター入試でリスニングが導入されることとなります(平成18年実施を目標)。リスニングの導入に関しては受験者に公平な条件下、環境下で受験してもらうため、会場や設備などまだ検討の余地が残っているように思われます。詳細は5月の文部科学省の発表を待つこととなります。次に受験英語に関係してくるのは、各大学の入学者選抜の改善です。コミュニケーション能力が適切に評価できる選抜方法が求められています。その具体的な取り組みを多くの大学について把握することは難しいのですが、最近各大学のホームページが充実しており、中には試験問題や解答を公開したり(大阪大学)、受験生への入試に関する具体的なアドバイスを行ったりしている大学も見受けられます。最後は外部試験結果の入試での活用促進で、今後TOEFLやTOEIC、英検などが外部試験として積極的に採用されることになるでしょう。

次に、「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」にみられるキーワードを検討してみます。まずこの行動計画を作ることになった背景では、**グローバル化、国際的な相互依存関係、国際的な経済競争、メガコンペティション、果敢な挑戦、国際社会を生きる、国際的な理解と協調、国際的な活動、知識、情報、発信、対話、国際的共通語、英語のコミュニケーション能力、わが国の発展**というキーワードが登場します。国としては当然のことながら日本の国際的な力をつけることを主眼としており、それには英語力が当然必要だと考えているようです。英語を学ぶということが、経済競争と国家政策に従属させられていることには、大きな疑問が残りますが、今回のフォーラムの目的とはそれですのでそれに関する議論は別の機会にしたいと思います。また、新しい点としては、英語力のみならず日本語の力も必要だとしていることです。

次に「英語授業の改善」では、中学、高校向けには**英語による日常的な会話、基礎的・実践的コミュニケーション能力**という言葉がキーワードになっています。文法や和訳する読解が中心であった伝統的な英語教育をコミュニケーション中心にしようとする意図です。コミュニケーション能力というのは、聞いて話す能力だけではなく、もちろん読み書きの能力も含まれるわけですから、コミュニケーションを会話中心と捉えてしまうことには問題があると思います。英語教育で言われる「コミュニケーション」という意味を単なるオーラル・コミュニケーションという狭義の意味としてとらえるのか、それとも読み書きを含めた「意味中心」「相互作用的」やり取りと理解するのかを再考し、定義し直す必要があるかもしれません。

教員の質向上にも触れています。**実用英語技能検定準1級、TOEFL550点、TOEIC730点以上、研修、外国人教員の活用、JETプログラム、「学校いきいきプラン」、「特別非常勤講師制度」**などというキーワードから伺えるように、これからは英語ネイティブ教員が

ますます増え、日本人教員も英語の実践的能力向上が求められる時代になります。また教員免許がなくても英語が使える人が教壇に立つ機会が増えることになります。

英語学習動機付けに関係しては、**高校生海外留学（年間 10, 000 人）、英語を使う機会、世界へ情報発信**というキーワードが使われ、全体的な英語能力の底上げだけでなく、特に英語ができる人材をさらに伸ばしていこうという意図がみられます。また外国語である英語を使う機会を増やすことで、学習意欲を高め、能力向上を狙っています。

善きにつけ悪しきにつけ、大学入試の方式が変わるとその波及効果は大きいので、もしセンター試験でリスニングテストが導入されれば、ますます小学校からの英会話が盛んになるでしょう。現在多くの小学校では「総合的な学習の時間」を使い英会話を教えています。その子供たちが大学入試を迎えるのはおよそ 10 年後です。確かにリスニングの力や会話能力は短期間で獲得できるものではありませんので、自然に言語を習得できる能力を持つ子供のころから英語に触れることには利点もありますが、受験のための授業という位置づけにならないことを祈っています。

センター試験でリスニング力が問われることになると、当然中学、高校の英語教員の指導力が問われる事になります。塾や予備校などでは、リスニングやスピーキングなど、いわゆるオーラル・コミュニケーションと呼ばれる科目を積極的に教えることになるでしょう。

以上、文部科学省が発表した戦略構想を概観しながら、その波及効果を考えてみましたが最後に大学の英語教員として受験英語を取り巻く環境改善に対して何ができるかをもう一度まとめてみます。

## 5. 受験英語を取り巻く環境改善に向けて： 受験生に優しい大学づくり

われわれ大学の英語教育関係者が取り組むべきことは：

- \* 大学教員は研究者でありながら、教育者であることを認識し、教育力の向上に努める。
- \* 入試問題をつくる教員はテストングの基礎を勉強する。
- \* 複数で入試問題を作成、チェックし、ネイティブにも最終チェックをしてもらう。
- \* 大学のホームページ上で過去の入試問題と解答を公開する。
- \* 英語教育の意義、目的に対する明確な理念を持つ。
- \* どのような学生を求め、どのような学生に育てるのかを明確にする。
- \* 中学、高校での英語授業の内容、現状を理解する。
- \* 中学、高校の英語教員と積極的に交流し、情報交換する。

## おわりに

文部科学省の「英語が使える日本人」の育成のための行動計画がこれから実施されるこ

とになります。はたして、5年後、10年後には日本人の英語力はどうなっているのでしょうか？ そして受験英語の功罪は大きく変化しているのでしょうか？ ひとりの英語教員として、私は日本のこどもたちの英語力が伸びることを望んではいませんが、それ以上にこれからのこどもたちが、世界のさまざまな人々と友好で、尊敬し認め合う関係を築き上げるために多少の英語と豊かな表情と優しい心でコミュニケーションが取れるようになっていけばいいな、と思っています。

## 参考文献

- 伊佐治正治、小林功、渡部良典、浅野博、「英語教育 6月号 - 特集・大学入試を検証する」大修館、pp.8-30, (2000)
- 遠藤八郎、『明日への学校英語』、英潮社新社、1984年
- 大内義徳、「正しい入試問題をつくってください： 高校入試の改善を目指して」『実践・英語教育体系 vol.20 受験英語と実用英語』 開隆堂出版 1986年
- 木本清、『日本の英語教育をだめにしているのは』、鳥影社、2000年
- 澤井繁男、『誰がこの国の英語をダメにしたか』、NHK出版、2001年
- 高島敦子、『これでよいのか英語教育』、新評論、1992年
- 竹蓋幸生、『英語教育の科学』、アクル、1997年
- 田中茂範、『データに見る現代英語表現・構文の使い方』、アルク、1990年
- 丹羽健夫、『悪問だらけの大学入試 - 河合塾から見えること』、集英社新書、2001年
- 平泉渉・渡部昇一、『英語教育大論争』文芸春秋、1975年

**フォーラム 2003 : 英語力を問う 資料集**

発行年月日 平成 15 年 5 月 30 日

発 行 者 英米文化学会

発行責任者 高 取 清

発 行 所 英米文化学会

〒101-8310 千代田区神田駿河台 1-8-13

日本大学歯学部 3 号館 佐藤治夫英語研究室内

## 資料集の訂正箇所

p.9 の 2 行目： わらない。 → わからない。

p.16 の下から 5 行目： リーディイング。 → リーディング。

p.42 の 5 行目： 「高等学校英語始動要領解説 外国語交 英語編」 →  
「高等英語指導要領解説 外国語編 英語編」

p.46 の 9 行目： 張し表現を するための時間を割くべきである。」 →  
張し表現するための時間を割くべきである。」

p.47 の下から 4 行目： 変わってい → 変わってき

p.48 の 6 行目： 戦略構想 → 行動計画

p.55 の 18 行目： 戦略構想 → 行動計画

p.56 の下から 4 行目： アクル → アルク